

第4章 ミドル・シニア(50~64歳)調査

章目次

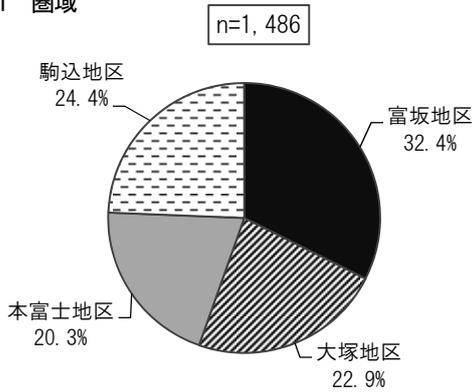
1	対象者自身について.....	101
	圏域.....	101
	F 1 性別、年齢（平成28年10月1日現在）.....	101
2	住まいについて.....	102
	問1 住まいの形態.....	102
	問2 現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に、住み続けられる住まい だと思うか.....	102
	問3 住まいについて不便や不安を感じていること.....	103
3	日常生活について.....	105
	問4 現在の生活で不安を感じていること.....	105
4	高齢者あんしん相談センターについて.....	106
	問5 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度.....	106
5	健康づくりについて.....	107
	問6 現在の健康状況.....	107
	問7 健康の維持・増進のため、現在取り組んでいること.....	108
	問7-1【取り組んでいる方】取り組みを始めたきっかけ.....	108
	問7-2【健康の維持・増進などに取り組んでいない方】取り組んでいない主な理由.....	110
	問8 健康の維持・増進のため、今後取り組んでみたいこと.....	111
	問9 かかりつけ医・歯科医・薬局の有無.....	113
6	認知症について.....	114
	問10 認知症のケアや支援制度について知っていること.....	114
	問11 認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口.....	115
	問12 認知症に関する区の事業について知っていること.....	116
7	介護等について.....	117
	問13 介護が必要になっても、安心して、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要 なこと.....	117
	問14 介護が必要になった場合に希望する暮らし方.....	119
	問15 終末期を迎える場所の希望.....	120
	問15-1【自宅を希望する方】自宅で最期まで療養するために必要なこと.....	120
	問16 高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと.....	121

高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと「その他」 （自由記述）	123
問 17 介護者及び介護の状況について	125
8 就業について	126
問 18 現在の就労状況と今後の就労意向	126
問 18-1 【就労意向のある方】希望する働き方.....	128
問 18-2 【就労意向のある方】仕事をしたい（し続けたい）理由.....	129
9 地域とのつながり・地域活動について.....	130
問 19 参加してみたい、興味があるボランティア活動.....	130
問 20 参加してみたい、興味がある活動団体やグループ.....	132
問 21 定期的に参加している活動団体やグループ.....	132
問 21-1 【参加している方】参加している活動を始めたきっかけ.....	135
問 21-2 【参加していない方】現在活動団体やグループに参加していない理由.....	136
10 災害について.....	138
問 22 災害に関して不安に感じていること.....	138
問 23 災害発生時に備えて行っていること.....	139

1 対象者自身について

圏域

図表 4.1 圏域

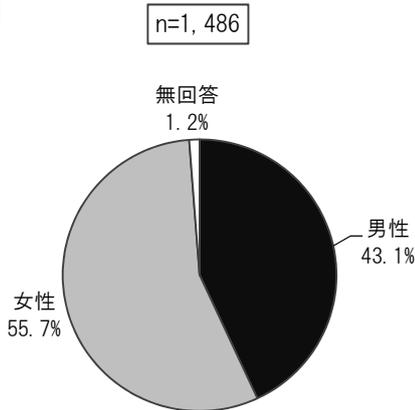


圏域は、「富坂地区」32.4%、「大塚地区」22.9%、「本富士地区」20.3%、「駒込地区」24.4%となっています。

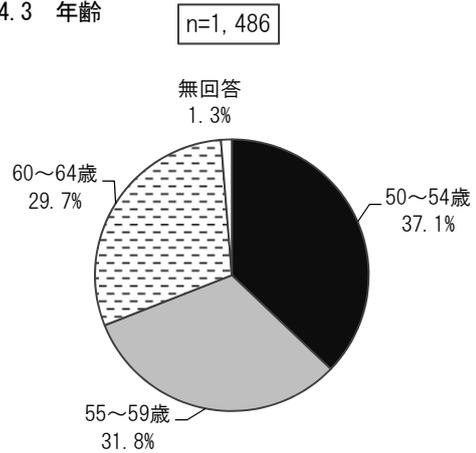
F 1 性別、年齢 (平成 28 年 10 月 1 日現在)

性別は、「男性」43.1%、「女性」55.7%となっており、「女性」が多くなっています。
 年齢は、「50~54歳」37.1%、「55~59歳」31.8%、「60~64歳」29.7%となっています。

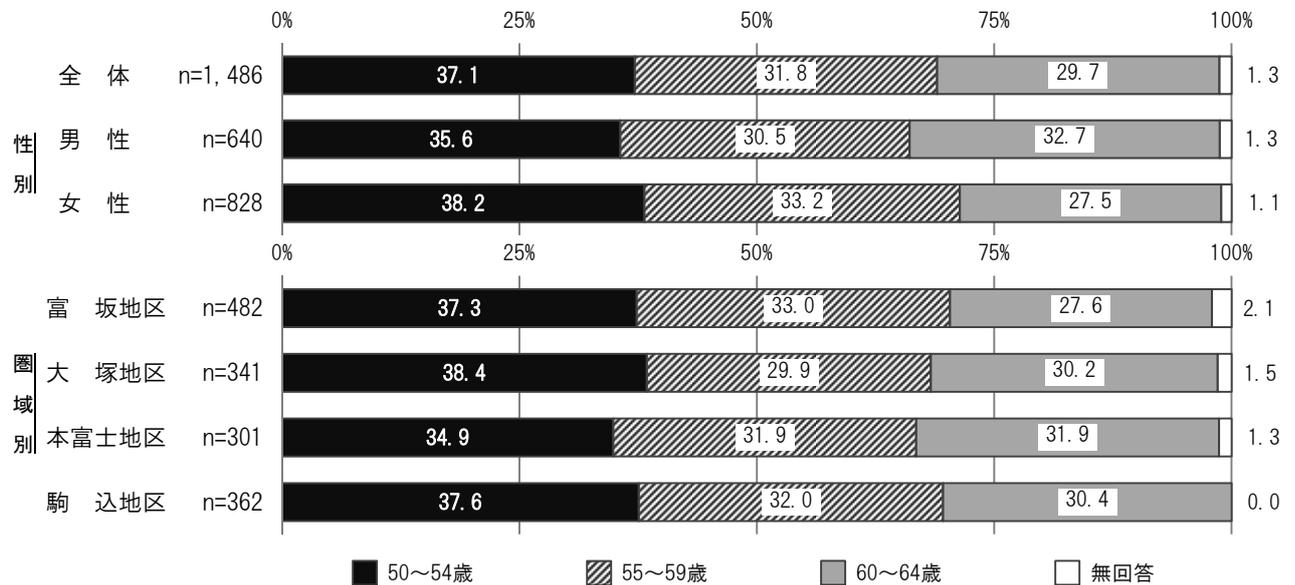
図表 4.2 性別



図表 4.3 年齢



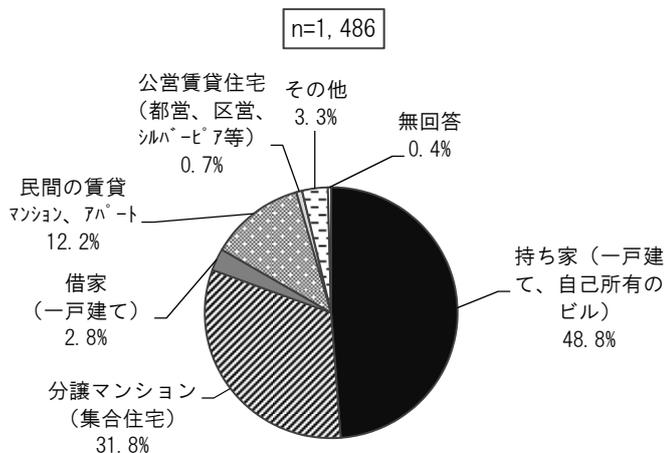
図表 4.4 年齢/性別/圏域別



2 住まいについて

問1 住まいの形態

図表 4.5 住居形態



住居形態は、「持ち家」が48.8%で最も高く、「持ち家」と「分譲マンション」を合わせると80.6%となっています。

圏域別にみると、「持ち家」の割合は「本富士地区」が53.5%で最も高くなっています。

※その他【抜粋】

- ・社宅
- ・姉の持ち家
- ・公務員住宅
- ・官舎

図表 4.6 住居形態/圏域別

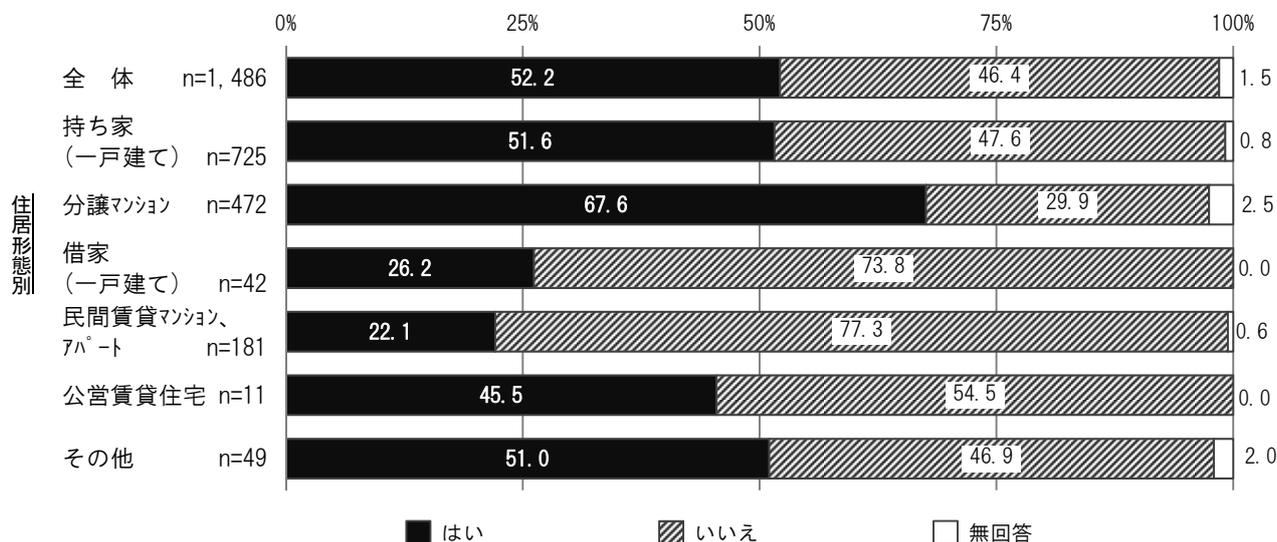
単位：%

項目	回答者数 (人)	持ち家 (一戸建て、自己所有のビル)	分譲マンション (集合住宅)	借家 (一戸建て)	民間賃貸マンション、アパート	公営賃貸住宅 (都営、区営、シルバー等)	その他	無回答	
全体	1,486	48.8	31.8	2.8	12.2	0.7	3.3	0.4	
圏域別	富坂地区	482	46.3	34.6	2.5	12.2	0.4	3.5	0.4
	大塚地区	341	43.4	37.0	3.2	10.9	0.3	4.7	0.6
	本富士地区	301	53.5	28.6	2.3	11.6	1.0	2.3	0.7
	駒込地区	362	53.3	25.7	3.3	13.8	1.4	2.5	0.0

問2 現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に、住み続けられる住まいだと思いか

現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいかについて、住居形態別にみると、「はい」の割合は「分譲マンション」が67.6%で最も高く、次いで「持ち家」が51.6%となっています。

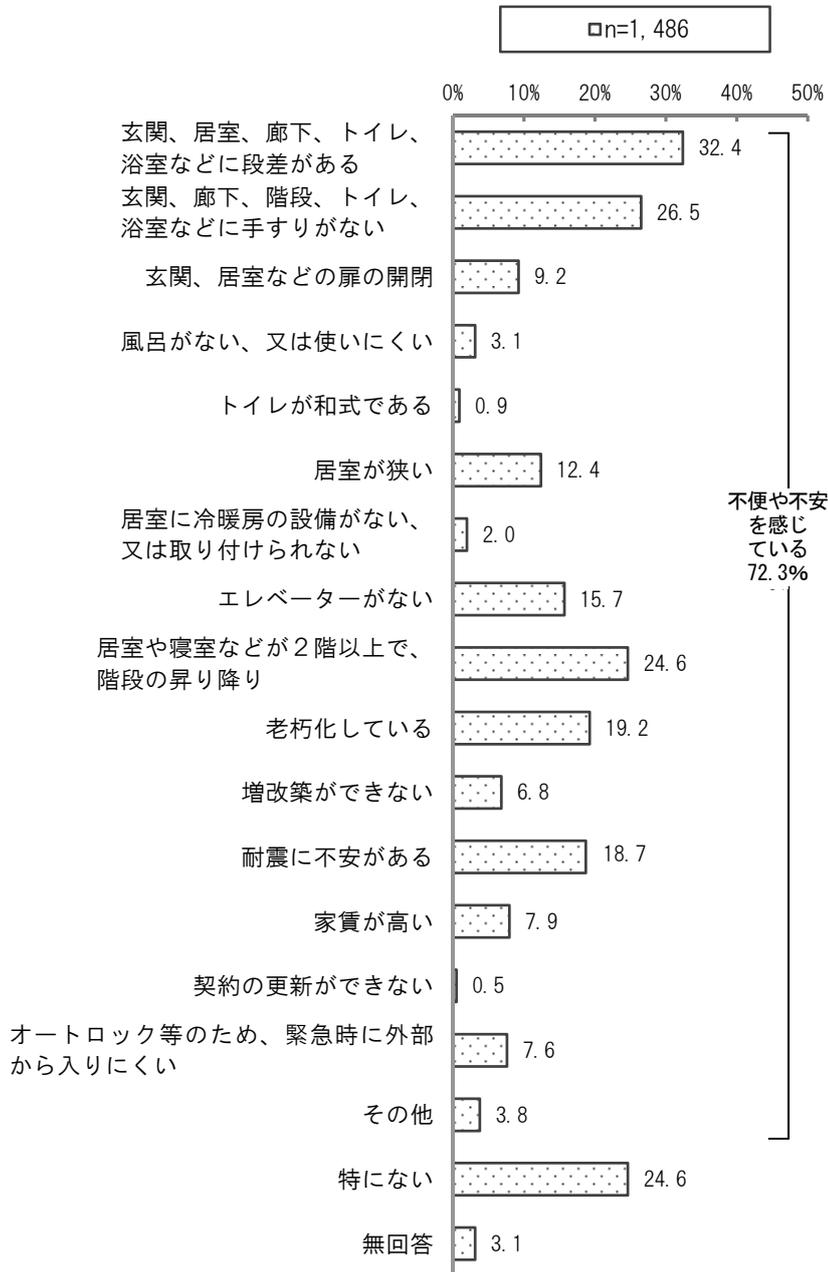
図表 4.7 今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいか/住居形態別



問3 住まいについて不便や不安を感じていること

住まいについて不便や不安を感じている割合は72.3%で、「玄関、居室、廊下、トイレ、浴室などに段差がある」が32.4%で最も高く、次いで「玄関、廊下、階段、トイレ、浴室などに手すりがない」が26.5%、「居室や寝室などが2階以上で、階段の昇り降り」が24.6%となっています。また、「特にない」は24.6%となっています。

図表 4.8 住まいについて不便や不安を感じていること（複数回答）



※「不便や不安を感じている」=100%－「特にない」－「無回答」

※その他【抜粋】

- ・マンションの管理費、修繕積立金が高額
- ・商店が少なくなり、買い物に不便。食品以外のものが特に手に入らない。
- ・家が急な坂の上にあること
- ・近隣の入れ替わりが多く、近所付き合いがない。
- ・電波時計を窓際においても電波が届かない。

住まいについて不便や不安を感じていることを住居形態別にみると、「持ち家」は「居室や寝室などが2階以上で、階段の昇り降り」が43.2%、「民間賃貸マンション等」、「公営賃貸住宅」は「家賃が高い」がそれぞれ46.4%、63.6%で最も高くなっています。
健康感別にみると、いずれも「玄関、居室、廊下、トイレ、浴室などに段差がある」割合が最も高くなっています。

図表 4.9 住まいについて不便や不安を感じていること（複数回答）/住居形態別/健康感別 単位：%

項目	回答者数(人)	玄関、居室、廊下、 トイレ、浴室などに 段差がある	玄関、廊下、階段、 トイレ、浴室などに 手すりが無い	玄関、居室などの扉 の開閉	風呂がない、又は使 いにくい	トイレが和式であ る	居室が狭い	居室に冷暖房の設 備がない、又は取り 付けられない	エレベーターがな い	居室や寝室などが 2階以上で、階段の 昇り降り	
		全体	1,486	32.4	26.5	9.2	3.1	0.9	12.4	2.0	15.7
住居形態別	持ち家(一戸建て)	725	39.7	25.5	8.7	2.6	0.8	9.5	1.7	23.6	43.2
	分譲マンション	472	24.6	27.5	9.7	0.8	0.0	11.4	1.1	2.3	1.3
	借家(一戸建て)	42	38.1	28.6	11.9	4.8	0.0	19.0	0.0	16.7	33.3
	民間賃貸マンション等	181	21.5	29.3	5.5	9.4	3.3	23.8	4.4	18.8	8.8
	公営賃貸住宅	11	36.4	18.2	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
	その他	49	30.6	20.4	18.4	8.2	2.0	16.3	6.1	20.4	28.6
健康感別	とても健康	337	25.8	20.8	8.0	0.9	0.6	7.1	0.6	14.8	24.0
	どちらかといえば健康	961	34.5	27.3	8.9	2.8	0.7	13.4	1.8	16.1	25.1
	あまり健康ではない	135	31.9	34.1	14.1	7.4	2.2	14.8	6.7	13.3	26.7
	健康ではない	46	39.1	28.3	10.9	10.9	2.2	19.6	2.2	17.4	10.9

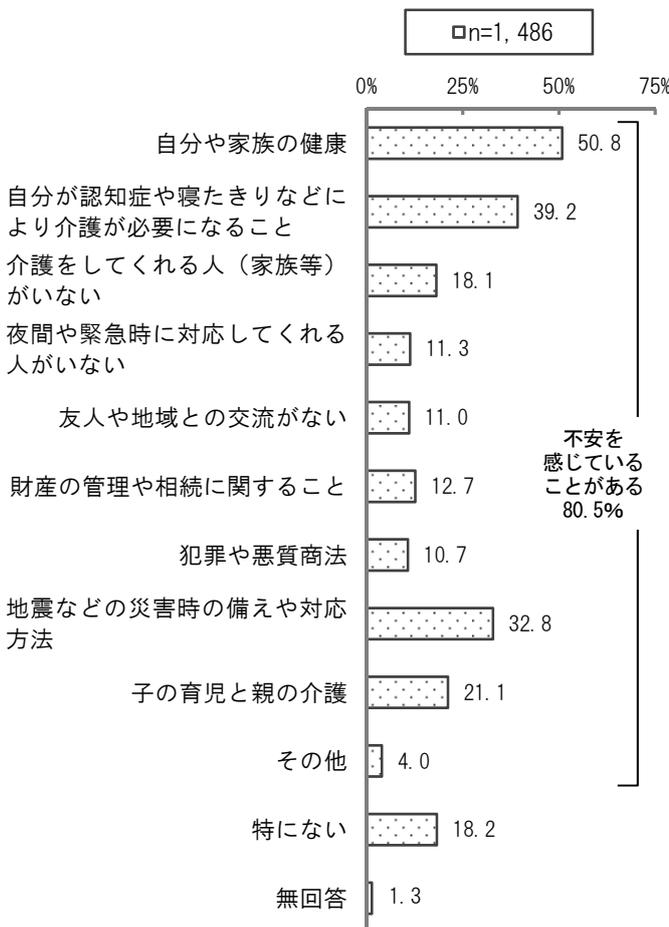
項目	回答者数(人)	老朽化している	増改築ができない	耐震に不安がある	家賃が高い	契約の更新がで き ない	オートロック等の ため、緊急時に外部 から入りにくい	その他	特 に な い	無 回 答	
		全体	1,486	19.2	6.8	18.7	7.9	0.5	7.6	3.8	24.6
住居形態別	持ち家(一戸建て)	725	20.6	7.0	21.5	0.0	0.0	3.0	2.3	19.6	3.2
	分譲マンション	472	11.4	3.6	10.2	2.1	0.0	15.7	5.1	37.3	2.8
	借家(一戸建て)	42	40.5	16.7	33.3	31.0	4.8	2.4	4.8	11.9	0.0
	民間賃貸マンション等	181	25.4	11.6	23.8	46.4	1.7	6.6	5.0	15.5	3.3
	公営賃貸住宅	11	9.1	0.0	27.3	63.6	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1
	その他	49	32.7	10.2	24.5	6.1	2.0	6.1	8.2	26.5	6.1
健康感別	とても健康	337	11.0	3.9	10.7	6.2	0.0	6.8	2.4	31.8	5.0
	どちらかといえば健康	961	20.2	7.5	19.1	8.2	0.5	7.2	3.6	23.9	2.7
	あまり健康ではない	135	28.1	8.1	28.9	9.6	0.7	12.6	4.4	14.8	1.5
	健康ではない	46	34.8	10.9	39.1	8.7	2.2	8.7	15.2	13.0	2.2

※「健康感」は「問6 現在の健康状況」(p107)の回答結果です。

3 日常生活について

問4 現在の生活で不安に感じていること

図表 4.10 生活上の不安（複数回答）



現在の生活で不安を感じていることがある割合は80.5%で、「自分や家族の健康」が50.8%で最も高く、次いで「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」が39.2%、「地震などの災害時の備えや対応方法」が32.8%となっています。

性別にみると、ともに「自分や家族の健康」がそれぞれ48.8%、52.4%で最も高くなっています。

年齢別、健康感別にみると、いずれも「自分や家族の健康」、「介護が必要になること」、「災害時の備えや対応方法」が上位となっています。

※その他【抜粋】

- ・ 定年後の財産、金銭事情
- ・ 子供がいないので老後が心配
- ・ 社会環境の変化をきっかけに収入が途絶えている。
- ・ 離職した時の収入源

「不安を感じていることがある」=100%－「特にない」－「無回答」

図表 4.11 生活上の不安（複数回答）/性別/年齢別/健康感別

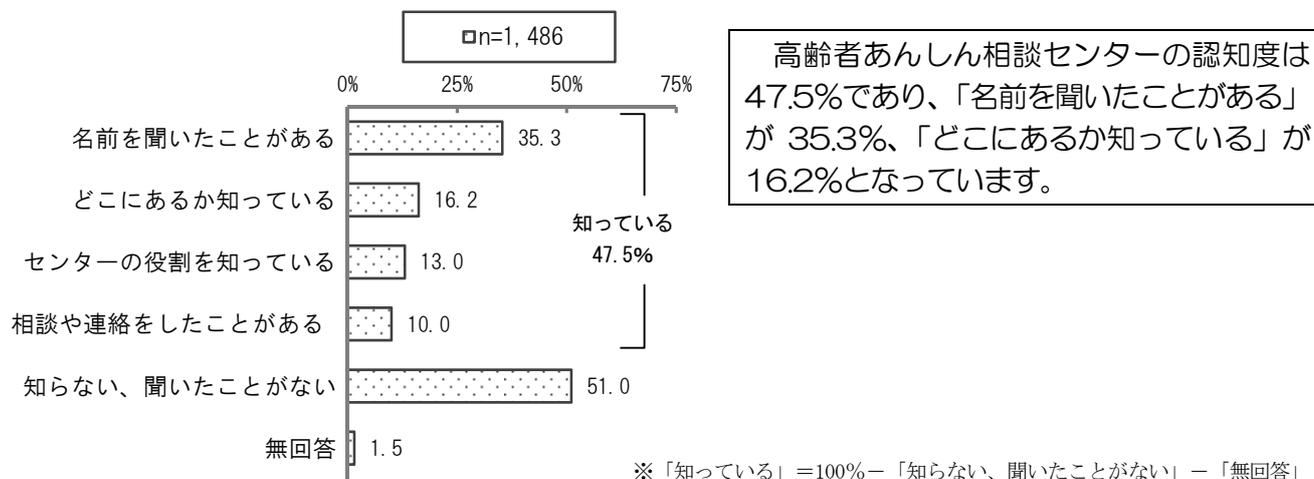
単位：%

項目	回答者数(人)	生活上の不安（複数回答）												
		自分や家族の健康	介護が必要になること	介護をしてくれる人がいない	夜間や緊急時に対応してくれる人がいない	友人や地域との交流がない	財産の管理や相続に関すること	犯罪や悪質商法	法	災害時の備えや対応方法	子の育児と親の介護	その他	特にない	無回答
全体	1,486	50.8	39.2	18.1	11.3	11.0	12.7	10.7	32.8	21.1	4.0	18.2	1.3	
性別	男性	640	48.8	35.0	14.1	10.2	12.0	11.7	7.0	28.4	20.8	3.4	21.1	1.1
	女性	828	52.4	42.6	21.1	12.0	10.3	13.5	13.5	36.4	21.7	4.5	15.7	1.6
年齢別	50~54歳	552	51.3	37.7	13.6	8.2	10.0	15.6	12.5	34.6	29.5	3.8	14.9	1.4
	55~59歳	473	51.4	36.4	18.0	10.6	10.6	12.9	9.7	35.3	20.5	4.9	18.0	1.5
	60~64歳	442	50.2	44.6	24.0	16.1	12.9	9.0	9.3	28.3	11.5	3.2	21.7	1.1
健康感別	とても健康	337	27.6	26.7	13.9	5.6	7.1	10.7	6.8	27.3	20.2	3.6	29.7	1.8
	どちらかといえば健康	961	54.2	41.4	16.5	11.2	10.7	12.6	10.9	35.1	21.6	4.0	16.2	1.2
	あまり健康ではない	135	74.1	48.9	31.9	23.0	20.7	15.6	15.6	31.1	20.7	4.4	7.4	1.5
	健康ではない	46	80.4	56.5	39.1	19.6	17.4	21.7	19.6	30.4	21.7	6.5	8.7	0.0

4 高齢者あんしん相談センターについて

問5 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度

図表 4.12 高齢者あんしん相談センターの認知度（複数回答）



圏域別にみると、「駒込地区」は「知らない、聞いたことがない」割合が43.9%で最も低くなっており、「大塚地区」の54.8%とは10.9ポイントの差がみられます。

性別にみると、ともに「知らない、聞いたことがない」割合が高く、「男性」が58.3%、「女性」が45.2%となっています。

年齢別にみると、「50～54歳」は「知らない、聞いたことがない」割合が56.5%で最も高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向となっています。

介護経験の有無別にみると、「介護経験あり」の人は、「どこにあるか知っている」割合が26.0%で、「介護経験なし」の人より17.8ポイント高くなっています。また、「センターの役割を知っている」、「相談や連絡をしたことがある」割合も10ポイント以上高くなっています。一方、「介護経験なし」の人では、「知らない、聞いたことがない」割合が6割を超えています。

図表 4.13 高齢者あんしん相談センターの認知度（複数回答）/圏域別/性別/年齢別/介護経験の有無別

項目		回答者数 (人)	名前を聞いた ことがある	どこにあるか 知っている	センターの役割 を知っている	相談や連絡を したことがある	知らない、聞い たことがない	無回答
全体		1,486	35.3	16.2	13.0	10.0	51.0	1.5
圏域別	富坂 地区	482	33.0	15.1	14.5	8.1	52.1	1.5
	大塚 地区	341	35.8	15.2	10.0	9.1	54.8	2.1
	本富士地区	301	33.2	15.0	13.0	9.6	53.5	0.3
	駒込 地区	362	39.5	19.3	13.8	13.5	43.9	1.9
性別	男 性	640	30.8	11.3	9.4	6.3	58.3	1.3
	女 性	828	39.0	19.7	15.7	12.7	45.2	1.7
年齢別	50～54 歳	552	30.8	14.7	10.9	10.0	56.5	1.8
	55～59 歳	473	33.6	19.0	15.0	12.7	50.3	1.1
	60～64 歳	442	42.5	15.2	13.1	7.2	45.0	1.6
介護経験の有無別	介護経験あり	654	41.4	26.0	19.9	18.3	36.9	1.8
	介護経験なし	790	30.9	8.2	7.6	2.7	62.4	1.0

※「介護経験の有無」は「問17 介護者及び介護の状況について」(p125)の回答結果です。

5 健康づくりについて

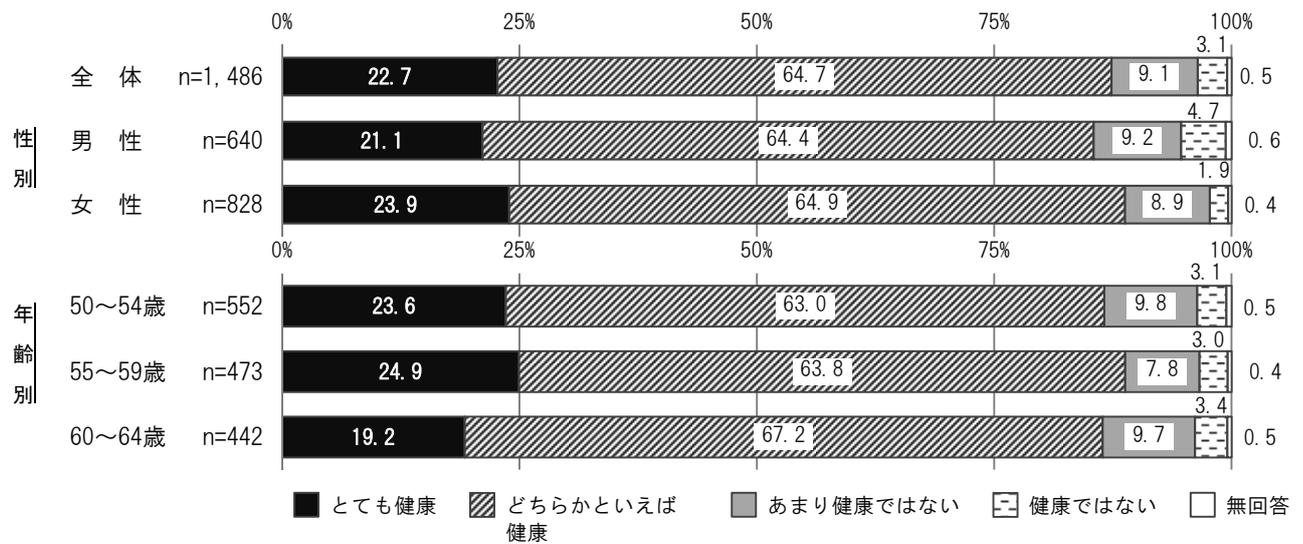
問6 現在の健康状況

主観的な健康感は、「どちらかといえば健康」と思う割合が64.7%で最も高く、「とても健康」と思う割合を合わせると87.4%となっています。

性別にみると、「とても健康」、「どちらかといえば健康」を合わせると「男性」が85.5%、「女性」が88.8%となっています。

年齢別にみると、いずれも「とても健康」、「どちらかといえば健康」を合わせると85%を超えています。

図表 4.14 主観的な健康感/性別/年齢別



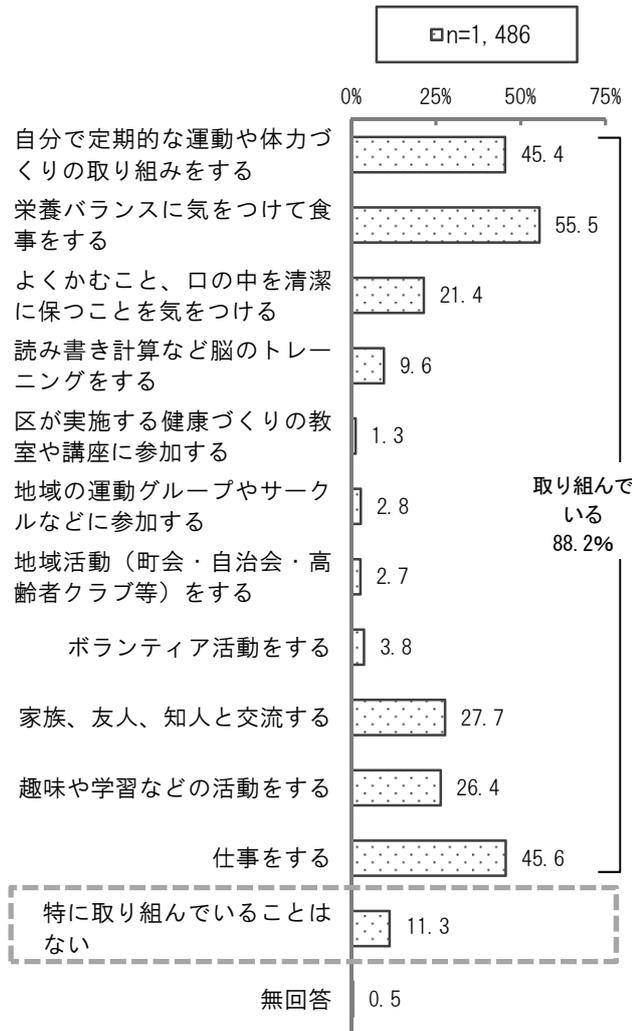
問7 健康の維持・増進のため、現在取り組んでいること

問7-1 【取り組んでいる方】取り組みを始めたきっかけ

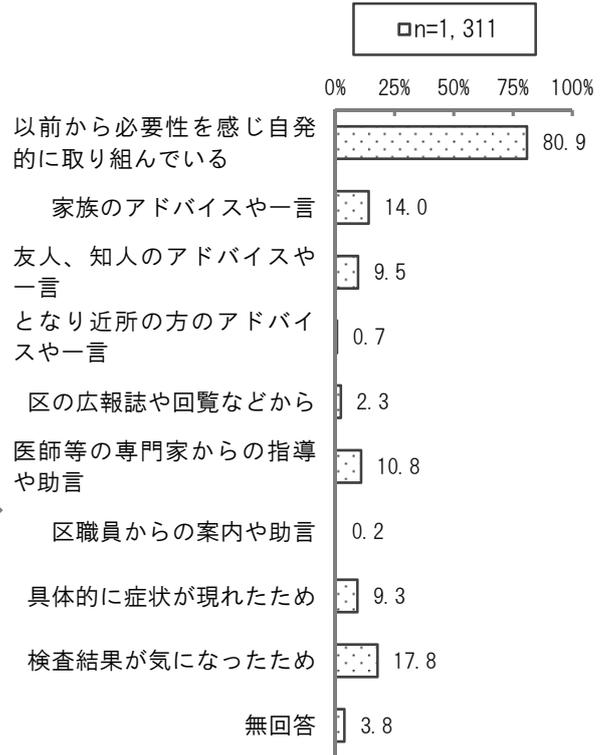
健康の維持・増進のために取り組んでいる割合は88.2%で、「栄養バランスに気をつけて食事をする」が55.5%で最も高く、次いで「仕事をする」が45.6%、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が45.4%となっています。

取り組みを始めたきっかけは、「以前から必要性を感じ自発的に取り組んでいる」が80.9%で最も高く、次いで「検査結果が気になったため」が17.8%となっています。

図表 4.15 健康の維持・増進のために取り組んでいること（3つ以内複数回答）



図表 4.16 取り組みを始めたきっかけ（複数回答）



問7-2へ

※「取り組んでいる」=100%－「特に取り組んでいることはない」－「無回答」

健康の維持・増進のために取り組んでいることを性別にみると、ともに「栄養バランスに気をつけて食事をする」が最も高く、「男性」が47.2%、「女性」が61.4%で女性が10ポイント以上高くなっています。「家族、友人、知人と交流する」も「女性」が15ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、いずれも「栄養バランスに気をつけて食事をする」が最も高く、50%以上となっています。

健康感別にみると、「とても健康」、「どちらかといえば健康」と思う人ほど取り組みをしており、「栄養バランスに気をつけて食事をする」、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」、「仕事をする」が上位となっています。

図表 4.17 健康の維持・増進のために取り組んでいること（3つ以内複数回答）/性別/年齢別/健康感別 単位：%

項目	回答者数(人)	自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする	栄養バランスに気をつけて食事をする	よくかむこと、口の中を清潔に保つことを気をつける	読み書き計算など脳のトレーニングをする	区が実施する健康づくりの教室や講座に参加する	地域の運動グループやサークルなどに参加する	地域活動(町会・自治会・高齢者クラブ等)をする	ボランティア活動をする	家族、友人、知人と交流する	趣味や学習などの活動をする	仕事をする	特に取り組んでいることはない	無回答	
		全体	1,486	45.4	55.5	21.4	9.6	1.3	2.8	2.7	3.8	27.7	26.4	45.6	11.3
性別	男性	640	45.6	47.2	18.8	10.5	0.2	1.9	3.4	2.8	18.8	25.0	40.9	16.6	0.5
	女性	828	44.8	61.4	23.6	8.8	2.2	3.6	2.2	4.5	34.5	27.4	49.5	7.4	0.5
年齢別	50~54歳	552	48.0	55.1	19.4	6.5	1.3	3.1	2.4	3.4	28.4	21.0	47.5	12.9	0.5
	55~59歳	473	42.7	56.0	19.7	9.7	0.8	3.0	3.0	3.6	27.9	30.9	44.6	11.4	0.4
	60~64歳	442	43.9	54.8	25.8	12.9	1.8	2.5	2.9	4.5	26.0	28.3	43.9	9.5	0.5
健康感別	とても健康	337	60.2	65.0	24.0	8.6	1.5	3.6	2.4	5.6	27.3	30.3	49.3	6.5	0.3
	どちらかといえば健康	961	44.2	53.4	20.8	9.2	1.2	2.8	2.8	3.3	29.1	26.0	45.8	11.3	0.4
	あまり健康ではない	135	26.7	52.6	17.8	15.6	1.5	1.5	3.7	3.7	23.7	23.0	39.3	16.3	0.7
	健康ではない	46	15.2	43.5	23.9	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7	17.4	32.6	30.4	0.0

取り組みを始めたきっかけを性別にみると、ともに「以前から必要性を感じ自発的に取り組んでいる」が最も高く、「男性」が75.0%、「女性」が84.7%となっています。

年齢別にみると、いずれも「以前から必要性を感じ自発的に取り組んでいる」が最も高く、約8割となっています。

図表 4.18 取り組みを始めたきっかけ（複数回答）/性別/年齢別 単位：%

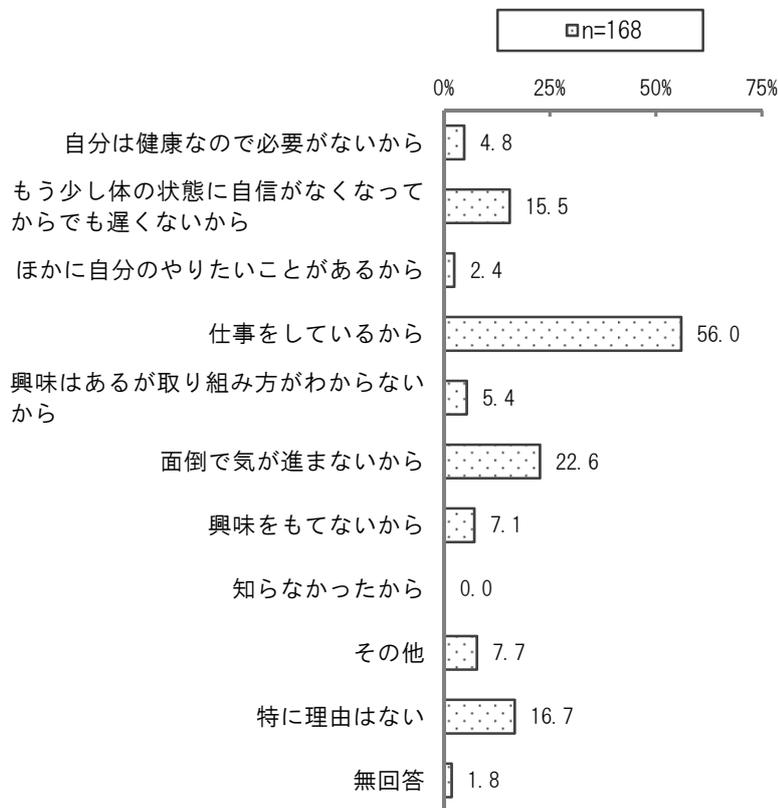
項目	回答者数(人)	以前から必要性を感じ自発的に取り組んでいる	家族のアドバイスや一言	友人、知人のアドバイスや一言	となり近所の方のアドバイスや一言	区の広報誌や回覧などから	医師等の専門家の指導や助言	区職員からの案内や助言	現れたため	具体的症状が	検査結果が気になったため	無回答
		全体	1,311	80.9	14.0	9.5	0.7	2.3	10.8	0.2	9.3	17.8
性別	男性	531	75.0	15.8	6.2	0.6	13.7	0.2	9.6	22.8	3.8	
	女性	763	84.7	12.8	11.8	0.8	9.0	0.1	9.2	14.4	3.9	
年齢別	50~54歳	478	81.2	15.7	9.4	0.6	9.4	0.2	10.3	18.6	3.1	
	55~59歳	417	80.8	11.5	8.6	0.7	10.6	0.0	6.7	16.3	3.8	
	60~64歳	398	79.9	14.8	10.8	0.8	12.8	0.3	10.8	18.8	4.5	

問7-2【健康の維持・増進などに取り組んでいない方】取り組んでいない主な理由

健康の維持・増進などに取り組んでいない理由は、「仕事をしているから」が56.0%で最も高く、次いで「面倒で気が進まないから」が22.6%、「特に理由はない」が16.7%となっています。

性別、年齢別にみると、いずれも「仕事をしているから」が最も高く、5割を超えています。

図表 4.19 取り組んでいない理由（3つ以内複数回答）



※その他【抜粋】

- ・母の通院及び介護施設などの対応のため
- ・子供が小さく、余裕がない。
- ・子育て中のため
- ・親の介護で手いっぱい
- ・時間的、精神的、経済的に余裕がない。
- ・介護、病院への付き添いや送り迎えが連日続いているため

図表 4.20 取り組んでいない理由（3つ以内複数回答）/性別/年齢別

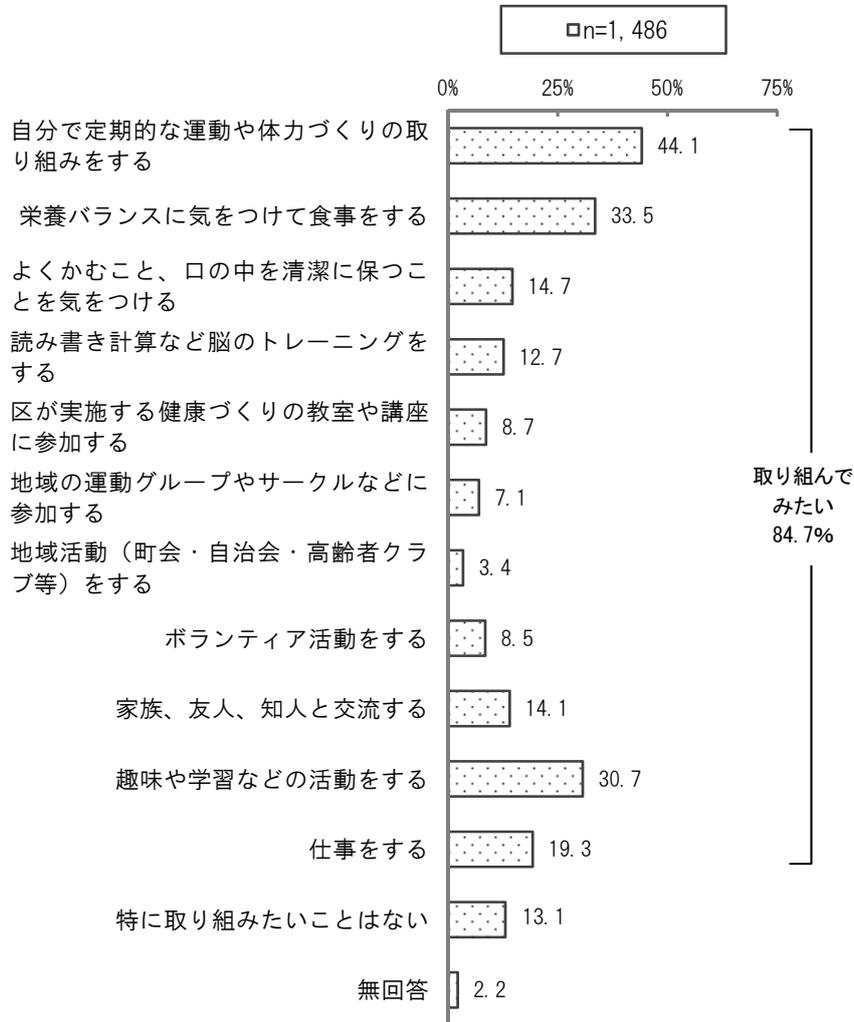
単位：%

項目	回答者数(人)	自分は健康なので必要がないから	もう少し体の状態に自信がなくなっ てからでも遅くないから	ほかに自分のやりたいこ とがあるから	仕事をして いるから	興味はあ るが取り 組み方 がわから ないから	面倒で 気が進 まない から	興味を もてな いから	知らな かった から	その他	特に理 由はな い	無回 答	
全体	168	4.8	15.5	2.4	56.0	5.4	22.6	7.1	0.0	7.7	16.7	1.8	
性別	男性	106	4.7	14.2	1.9	58.5	5.7	25.5	7.5	0.0	6.6	18.9	0.9
	女性	61	4.9	18.0	3.3	52.5	4.9	16.4	6.6	0.0	9.8	13.1	3.3
年齢別	50～54 歳	71	4.2	15.5	1.4	50.7	5.6	22.5	8.5	0.0	12.7	14.1	1.4
	55～59 歳	54	5.6	11.1	1.9	59.3	5.6	22.2	3.7	0.0	3.7	18.5	1.9
	60～64 歳	42	4.8	21.4	4.8	59.5	4.8	23.8	9.5	0.0	4.8	19.0	2.4

問8 健康の維持・増進のため、今後取り組んでみたいこと

健康の維持・増進のため、今後取り組んでみたい割合は84.7%で、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が44.1%で最も高く、次いで「栄養バランスに気をつけて食事をする」が33.5%、「趣味や学習などの活動をする」が30.7%となっています。

図表 4.21 健康の維持・増進のために取り組んでみたいこと（3つ以内複数回答）



※「取り組んでみたい」=100%－「特に取り組みたいことはない」－「無回答」

健康の維持・増進のため、今後取り組んでみたいことを性別にみると、ともに「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が最も高く、「男性」が44.8%、「女性」が43.2%となっています。

年齢別、健康感別にみると、いずれも「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が最も高くなっています。

また、「とても健康」、「どちらかといえば健康」と思う人は、健康でないと思う人に比べ、「趣味や学習などの活動をする」割合が高くなっています。

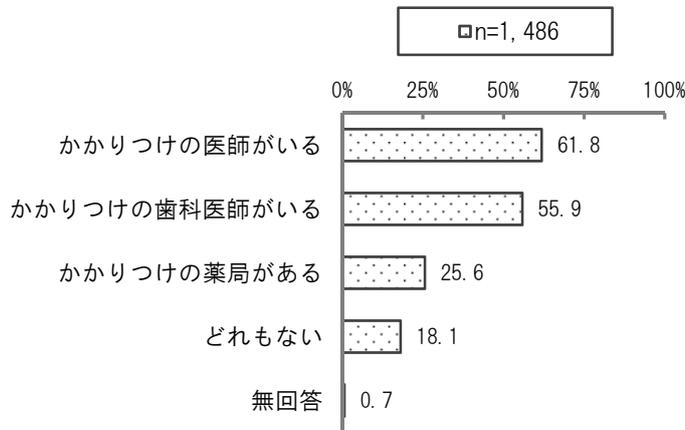
図表 4.22 健康の維持・増進のために取り組んでみたいこと（3つ以内複数回答）/性別/年齢別/健康感別 単位：%

項目	回答者数(人)	自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする	栄養バランスに気をつけて食事をする	よくかむこと、口の中を清潔に保つことを気をつける	読書や計算など脳のトレーニングをする	区が実施する健康づくりの教室や講座に参加する	地域の運動グループやサークルなどに参加する	地域活動(町会・自治会・高齢者クラブ等)をする	ボランティア活動をする	家族、友人、知人と交流する	趣味や学習などの活動をする	仕事をする	特に取り組みたいことはない	無回答	
		44.1	33.5	14.7	12.7	8.7	7.1	3.4	8.5	14.1	30.7	19.3	13.1	2.2	
全体	1,486	44.1	33.5	14.7	12.7	8.7	7.1	3.4	8.5	14.1	30.7	19.3	13.1	2.2	
性別	男性	640	44.8	34.7	12.7	10.6	4.2	6.7	3.3	6.1	10.8	24.7	21.9	17.8	1.7
	女性	828	43.2	32.5	16.3	14.5	12.2	7.1	3.6	10.3	16.7	35.3	17.4	9.4	2.5
年齢別	50～54歳	552	43.8	31.3	12.7	11.8	8.3	6.9	2.2	6.0	17.0	30.3	17.8	13.4	2.0
	55～59歳	473	44.2	32.8	16.7	14.0	6.8	7.8	3.4	9.3	13.5	31.3	20.3	14.0	1.9
	60～64歳	442	44.3	36.7	15.2	12.9	11.5	6.8	5.2	10.6	10.9	30.1	19.9	11.5	2.5
健康感別	とても健康	337	37.4	30.0	15.4	13.1	6.2	7.1	3.0	11.6	15.4	35.0	20.5	14.5	1.2
	どちらかといえば健康	961	45.3	34.0	14.5	12.6	9.7	7.4	3.5	7.7	13.1	30.3	19.4	12.4	2.7
	あまり健康ではない	135	55.6	37.8	14.1	9.6	9.6	5.9	4.4	7.4	17.0	25.9	17.0	12.6	0.0
	健康ではない	46	39.1	37.0	17.4	19.6	4.3	4.3	2.2	6.5	17.4	21.7	19.6	13.0	4.3

問9 かかりつけ医・歯科医・薬局の有無

かかりつけ医等の有無は、「かかりつけの医師がいる」が61.8%、「かかりつけの歯科医師がいる」が55.9%、「かかりつけの薬局がある」が25.6%となっています。

図表 4.23 かかりつけ医等の有無（複数回答）



かかりつけ医等の有無を性別で見ると、「女性」は「かかりつけの歯科医師がいる」、「かかりつけの薬局がある」が「男性」より約10ポイント高くなっています。

年齢別にみると、いずれも「かかりつけの医師がいる」、「かかりつけの歯科医師がいる」が、5割を超えています。

健康感別にみると、「とても健康」と思う人は、「かかりつけの歯科医師がいる」が62.6%で最も高く、それ以外では、「かかりつけの医師がいる」が最も高くなっています。

図表 4.24 かかりつけ医等の有無（複数回答）/性別/年齢別/健康感別 単位：%

項目	回答者数(人)	がかかりつけの医師	がかかりつけの歯科	がかかりつけの薬局	どれも無い	無回答	
		いる	いる	がある			
全体	1,486	61.8	55.9	25.6	18.1	0.7	
性別	男性	640	61.6	48.6	20.3	21.6	0.5
	女性	828	62.3	61.8	29.6	15.2	0.7
年齢別	50~54歳	552	59.4	55.4	25.2	20.5	0.2
	55~59歳	473	63.8	55.8	24.7	17.5	0.8
	60~64歳	442	62.4	57.5	27.6	15.8	1.1
健康感別	とても健康	337	57.9	62.6	20.2	17.5	0.3
	どちらかといえば健康	961	62.0	55.2	25.4	18.3	0.6
	あまり健康ではない	135	66.7	45.9	34.1	19.3	0.7
	健康ではない	46	73.9	47.8	45.7	17.4	2.2

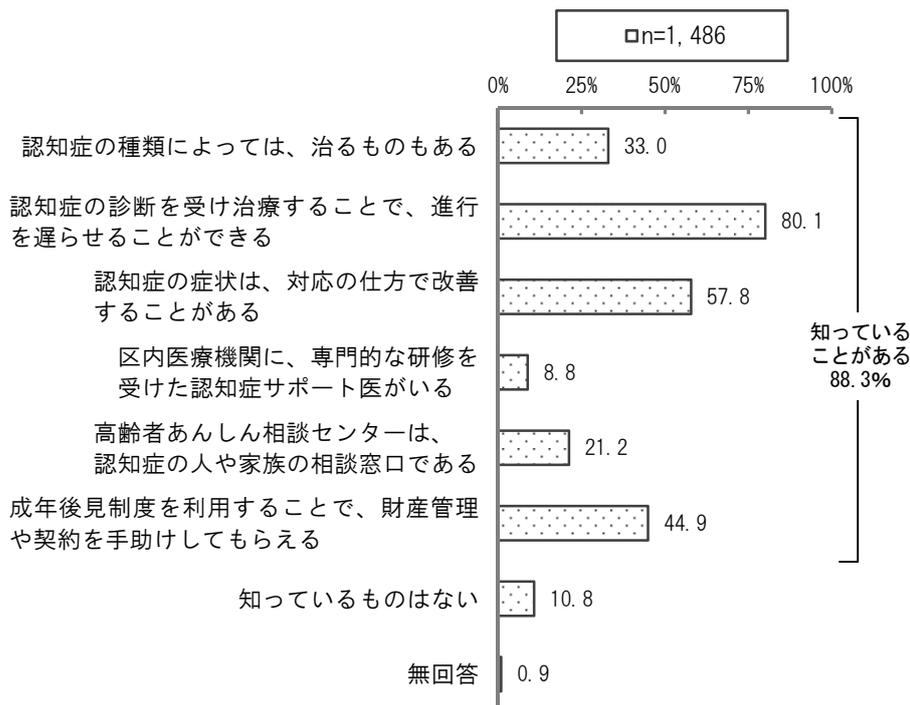
6 認知症について

問 10 認知症のケアや支援制度について知っていること

認知症のケアや支援制度について知っていることがある割合は88.3%で、「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」が80.1%で最も高く、次いで「認知症の症状は、対応の仕方でも改善することができる」が57.8%、「成年後見制度を利用することで、財産管理や契約を手助けしてもらえる」が44.9%となっています。

性別、年齢別にみると、いずれも「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」が最も高くなっています。特に「女性」で85.9%、「55~59歳」で83.3%と高くなっています。

図表 4.25 認知症のケアや支援制度について知っていること（複数回答）



※「知っていることがある」=100%－「知っているものはない」－「無回答」

図表 4.26 認知症のケアや支援制度について知っていること（複数回答）/性別/年齢別

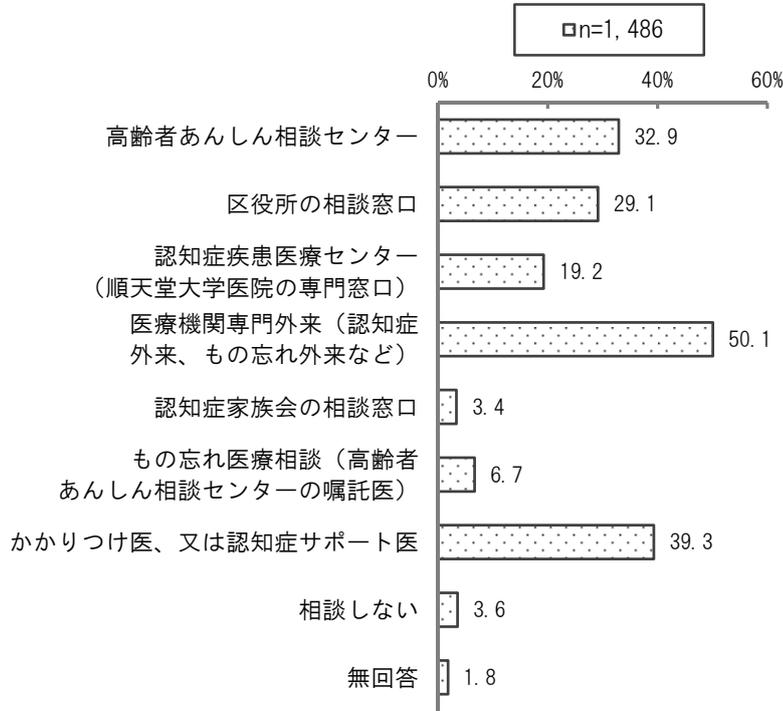
単位：%

項目	回答者数(人)	知っていること							知らないものはない	無回答
		認知症の種類によっては、治るものもある	認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる	認知症の症状は、対応の仕方でも改善することができる	区内医療機関に、専門的な研修を受けた認知症サポート医がいる	区内医療機関に、専門的な研修を受けた認知症サポート医がいる	高齢者あんしん相談センターは、認知症の人や家族の相談窓口である	成年後見制度を利用することで、財産管理や契約を手助けしてもらえる		
全体	1,486	33.0	80.1	57.8	8.8	21.2	44.9	10.8	0.9	
性別	男性	640	28.6	73.0	49.1	7.2	11.6	36.6	17.7	1.1
	女性	828	36.4	85.9	64.6	10.3	28.6	51.7	5.2	0.7
年齢別	50~54歳	552	31.3	78.8	54.5	8.3	19.9	40.2	13.8	0.2
	55~59歳	473	36.4	83.3	59.8	10.1	23.7	48.0	6.8	1.1
	60~64歳	442	31.4	78.7	59.3	7.9	19.9	47.3	11.1	1.6

問 11 認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口

認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口は、「医療機関専門外来」が50.1%で最も高く、次いで「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が39.3%、「高齢者あんしん相談センター」が32.9%となっています。

図表 4.27 認知症に関する相談に利用すると思う窓口（複数回答）



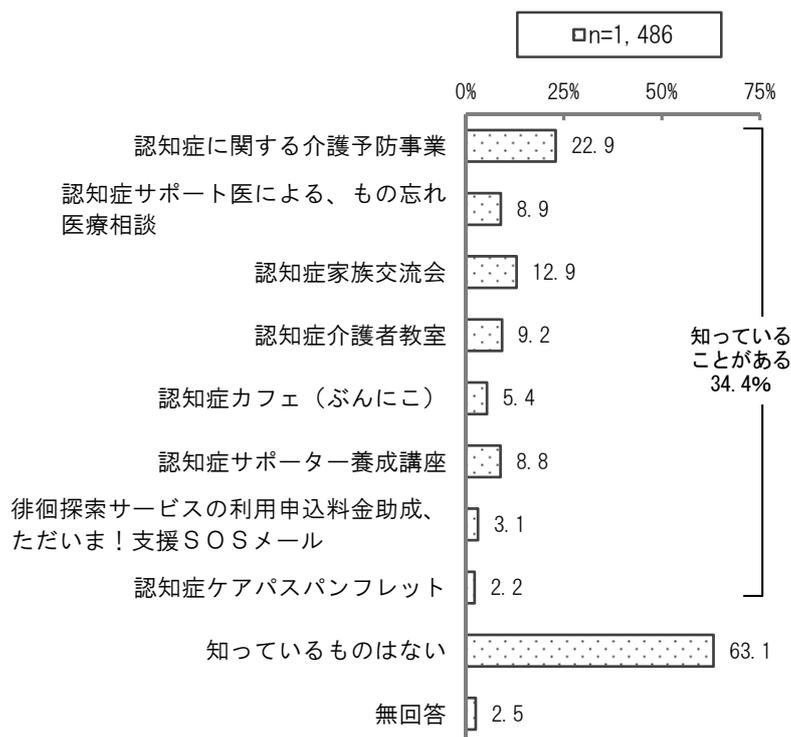
問 12 認知症に関する区の事業について知っていること

認知症に関する区の事業について知っていることがある割合は34.4%で、「認知症に関する介護予防事業」が22.9%で最も高くなっています。

性別にみると、「男性」のほうが「知っているものはない」の割合が高く、7割を超えています。

年齢別にみると、「55～59 歳」は「認知症に関する介護予防事業」を知っている割合が26.8%で他の年代より高く、「50～54 歳」は「知っているものはない」の割合が68.1%で他の年代より高くなっています。

図表 4.28 認知症に関する区の事業について知っていること（複数回答）



図表 4.29 認知症に関する区の事業について知っていること（複数回答）/圏域別/性別/年齢別

単位：%

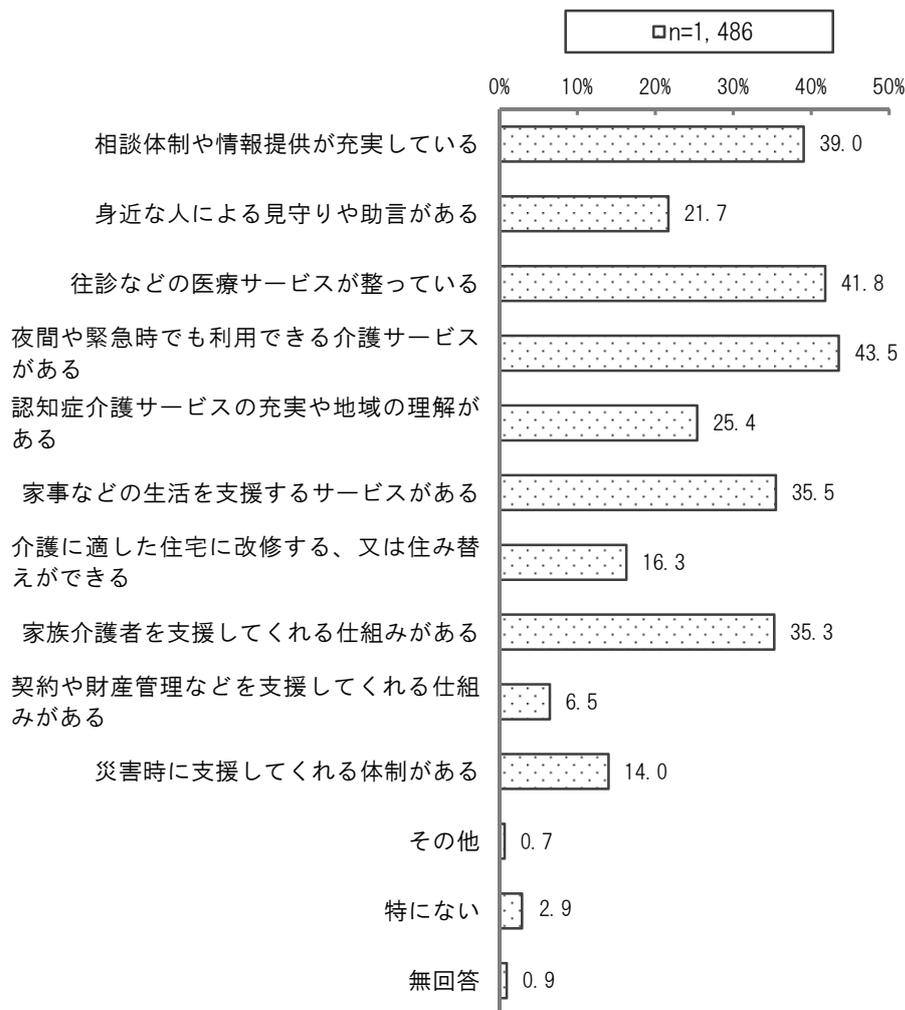
項目	回答者数(人)	認知症に関する介護予防事業	認知症サポート医による、もの忘れ医療相談	認知症家族交流会	認知症介護者教室	認知症カフェ（ぶんにご）	認知症サポーター養成講座	徘徊探索サービスの利用申込料金助成、ただいま！支援SOSメール	認知症ケアパスパンフレット	知っているものはない	無回答	
全体	1,486	22.9	8.9	12.9	9.2	5.4	8.8	3.1	2.2	63.1	2.5	
圏域別	富坂 地区	482	22.0	10.2	14.5	9.5	6.6	8.5	3.7	2.5	62.0	2.1
	大塚 地区	341	21.4	9.4	12.3	9.4	5.6	7.0	2.6	1.8	65.4	2.3
	本富士地区	301	24.3	7.3	11.0	6.6	3.7	10.6	3.3	2.7	64.1	2.3
	駒込 地区	362	24.3	8.0	13.0	10.8	5.0	9.4	2.5	1.9	61.6	3.3
性別	男性	640	18.1	7.8	5.5	3.6	2.7	4.7	1.7	2.0	73.1	2.0
	女性	828	26.6	9.7	18.7	13.5	7.5	12.2	4.2	2.4	55.2	2.9
年齢別	50～54 歳	552	19.7	8.5	12.0	8.2	5.6	8.3	2.4	2.0	68.1	1.1
	55～59 歳	473	26.8	9.9	16.7	9.1	6.1	11.0	4.7	2.7	57.7	3.8
	60～64 歳	442	22.2	7.9	10.0	10.4	4.3	7.0	2.5	2.0	62.7	2.9

7 介護等について

問13 介護が必要になっても、安心して、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと

住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと考えることは、「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」が43.5%で最も高く、次いで「往診などの医療サービスが整っている」が41.8%、「相談体制や情報提供が充実している」が39.0%となっています。

図表 4.30 地域で暮らし続けるために必要なこと（3つ以内複数回答）



※その他【抜粋】

- ・有料老人ホームの増設
- ・一人身に住居を与えてくれること
- ・経済的援助
- ・誰でも安心（費用、サービスの充実）して利用できる介護施設
- ・生きがいのある、ストレスの少ない社会
- ・働いた見返りのある社会
- ・生活保護の人が福祉の制限のある社会

住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと考えることを年齢別にみると、いずれも「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」、「往診などの医療サービスが整っている」が4割を超え高くなっています。また、いずれも「相談体制や情報提供が充実している」が4割弱となっています。

図表 4.31 地域で暮らし続けるために必要なこと（複数回答）/年齢別

単位：%

項目	回答者数（人）	相談体制や情報提供が充実している	身近な人による見守りや助言がある	往診などの医療サービスが整っている	夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある	認知症介護サービスの充実や地域の理解がある	家事などの生活を支援するサービスがある	介護に適した住宅に改修する、又は住み替えができる	家族介護者を支援してくれる仕組みがある	契約や財産管理などを支援してくれる仕組みがある	災害時に支援してくれる体制がある	その他	特にない	無回答	
全体	1,486	39.0	21.7	41.8	43.5	25.4	35.5	16.3	35.3	6.5	14.0	0.7	2.9	0.9	
年齢別	50～54 歳	552	39.3	23.2	40.9	42.8	26.4	34.1	19.2	41.1	5.6	12.5	0.4	2.0	0.9
	55～59 歳	473	39.3	21.4	40.4	45.7	25.6	34.2	14.6	34.2	5.7	14.0	1.5	3.2	0.6
	60～64 歳	442	38.9	19.9	44.3	42.8	24.0	38.5	13.8	29.4	8.4	14.7	0.2	3.6	1.4

問 14 介護が必要になった場合に希望する暮らし方

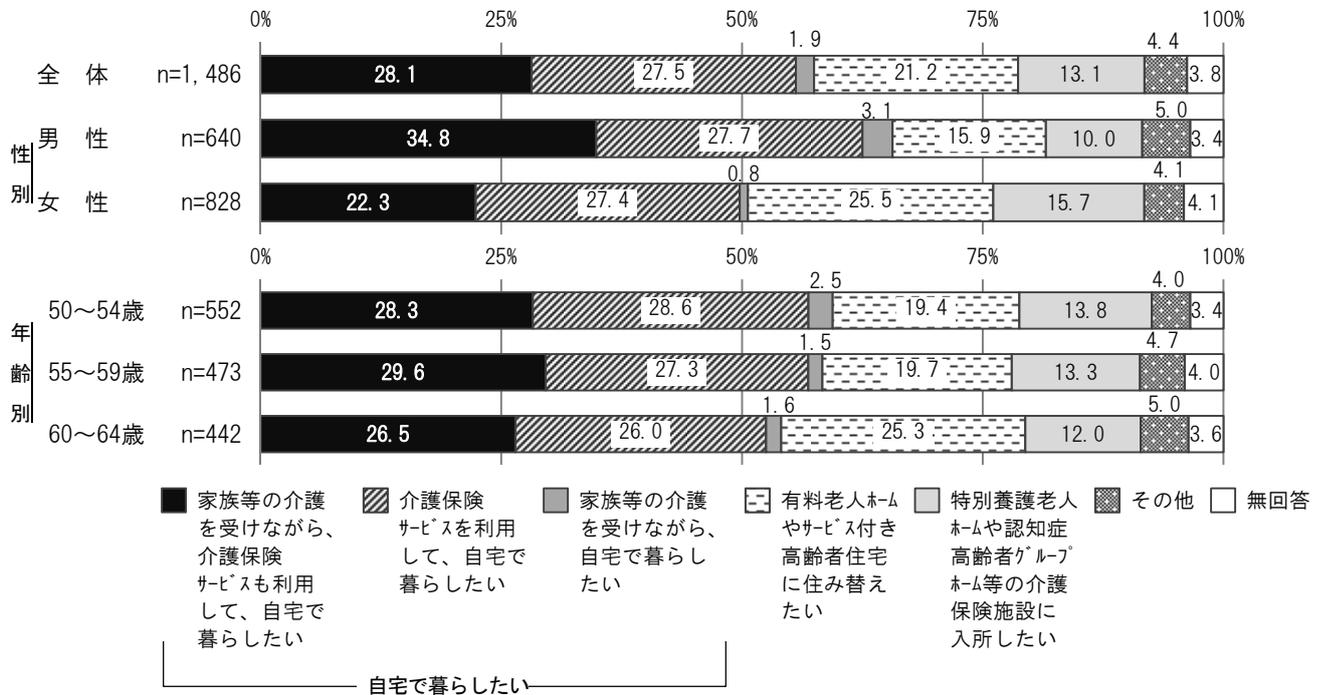
介護が必要になった場合に希望する暮らし方は、「家族等の介護を受けながら、介護保険サービスも利用して、自宅で暮らしたい」が 28.1%で最も高く、次いで「介護保険サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が 27.5%、「有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅に住み替えたい」が 21.2%となっています。

「家族等の介護を受けながら、介護保険サービスも利用して、自宅で暮らしたい」、「介護保険サービスを利用して、自宅で暮らしたい」、「家族等の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」を合わせた、「自宅で暮らしたい」の割合は 57.5%となっています。

性別にみると、「男性」は「家族等の介護を受けながら、介護保険サービスも利用して、自宅で暮らしたい」が 34.8%で最も高くなっており、「女性」は「介護保険サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が 27.4%で最も高くなっていきます。

年齢別にみると、「50~54歳」は「自宅で暮らしたい」割合が 59.4%で最も高く、次いで「55~59歳」が 58.4%となっています。

図表 4.32 今後希望する暮らし方/性別/年齢別



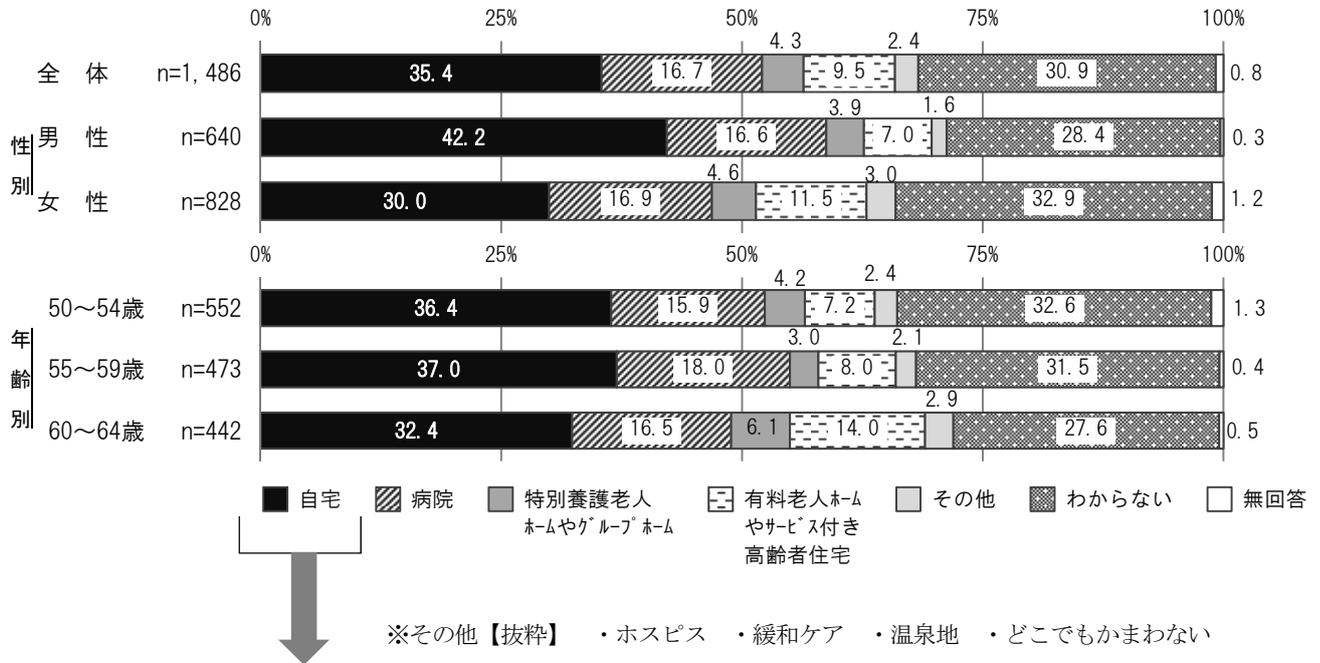
※その他【抜粋】

- ・経済的に自立できればいいがむずかしければ、不自由な思いをして生きながらえたくない。
- ・介護されてまで生きたくない。
- ・自然に恵まれた所に移り自然に囲まれながらいろいろな制度を使って暮らしたい。
- ・介護の内容によって考えたい。
- ・身内、知人、友人に負担をかけない。

問 15 終末期を迎える場所の希望

終末期を迎える場所の希望は、「自宅」が35.4%で最も高く、次いで「わからない」が30.9%、「病院」が16.7%となっています。
 性別にみると、ともに「自宅」が最も高く、「男性」が42.2%、「女性」が30.0%で「男性」が12.2ポイント高くなっています。
 年齢別にみると、いずれも「自宅」が最も高く、3割強となっています。

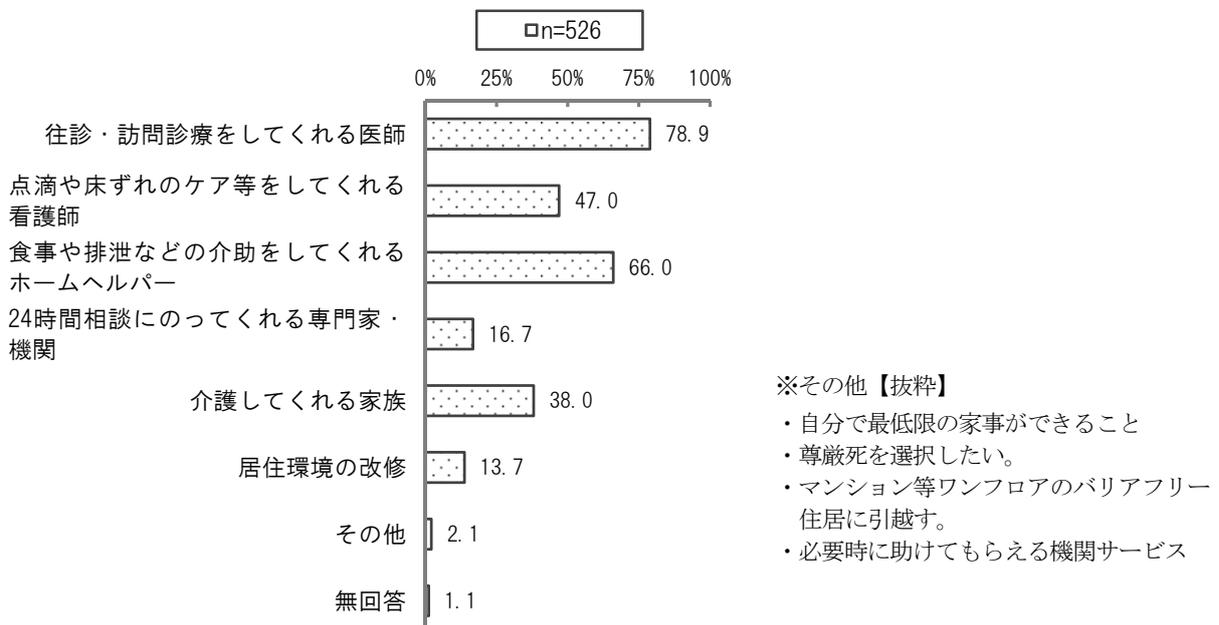
図表 4.33 終末期をどこで迎えたいか/性別/年齢別



問 15-1 【自宅を希望する方】自宅で最期まで療養するために必要なこと

終末期を「自宅」で迎えたいと思う人が、自宅で最期まで療養するために必要だと思うことは、「往診・訪問診療をしてくれる医師」が78.9%で最も高く、次いで「食事や排泄などの介助をしてくれるヘルパー」が66.0%、「点滴や床ずれのケア等をしてくれる看護師」が47.0%となっています。

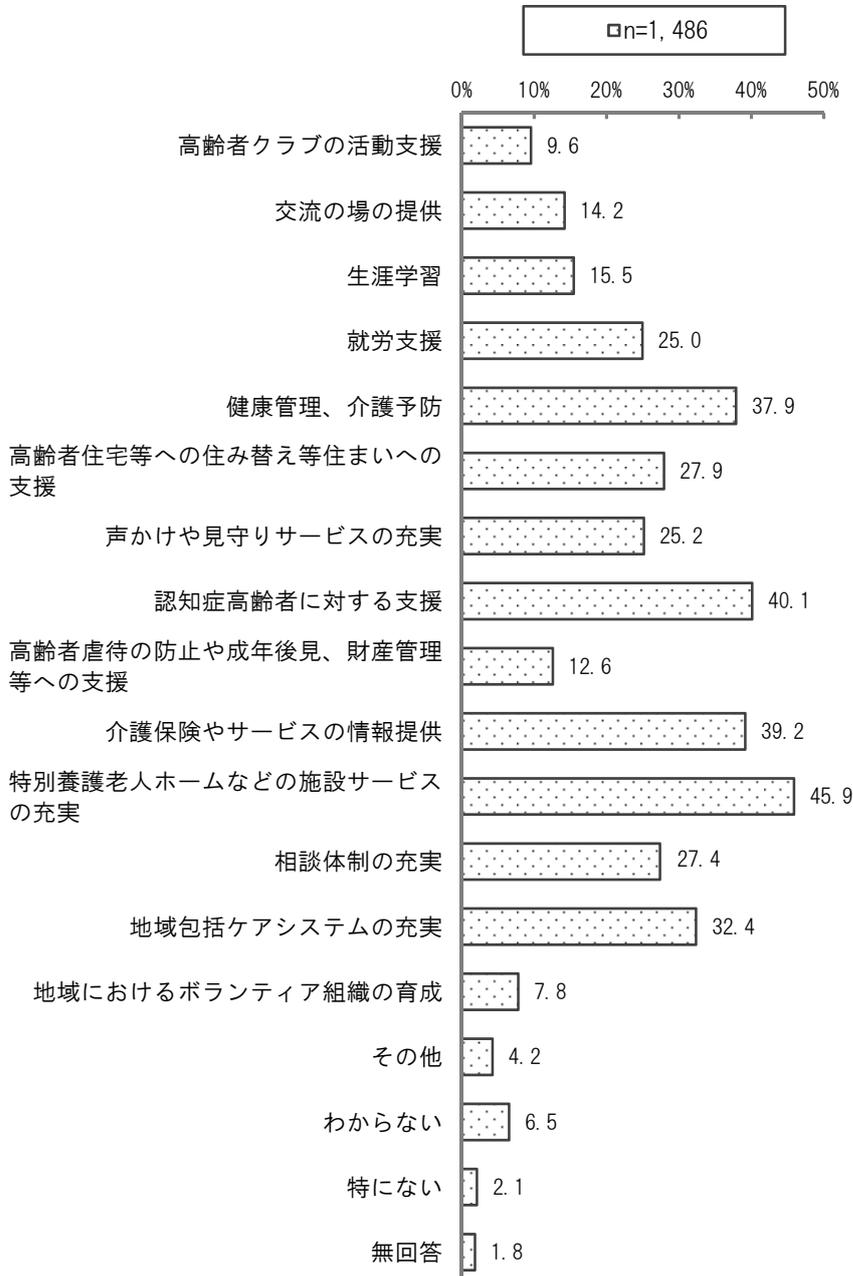
図表 4.34 自宅で最期まで療養するために必要なこと（3つ以内複数回答）



問 16 高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと

高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいことは、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が45.9%で最も高く、次いで「認知症高齢者に対する支援」が40.1%、「介護保険やサービスの情報提供」が39.2%となっています。

図表 4.35 高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと（複数回答）



高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいことを圏域別、性別、年齢別にみると、いずれも「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が4割強から5割弱で最も高くなっています。

図表 4.36 高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと（複数回答）圏域別/性別/年齢別 単位：%

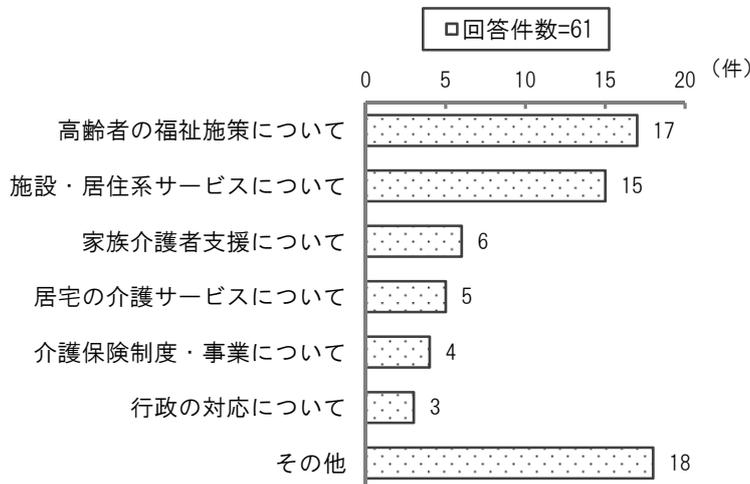
項目	回答者数(人)	高齢者クラブの活動支援	交流の場の提供	生涯学習	就労支援	健康管理、介護予防	高齢者住宅等への住み替え等住まいへの住み替え等住まいへの住み替え等	声かけや見守りサービスの充実	認知症高齢者に対する支援	高齢者虐待の防止や成年後見、財産管理等への支援	
全体	1,486	9.6	14.2	15.5	25.0	37.9	27.9	25.2	40.1	12.6	
圏域別	富坂 地区	482	9.8	16.0	15.8	24.1	38.2	29.7	24.7	38.0	11.2
	大塚 地区	341	8.8	10.6	12.9	22.0	32.0	29.0	24.6	40.5	13.2
	本富士地区	301	9.0	15.9	15.0	20.3	37.5	21.6	24.9	39.9	13.3
	駒込 地区	362	10.5	13.8	18.0	32.9	43.4	29.8	26.5	42.8	13.3
性別	男性	640	8.6	14.8	14.7	25.6	38.9	23.0	19.5	39.1	9.2
	女性	828	10.1	13.6	15.9	24.4	37.0	31.6	29.2	40.9	14.9
年齢別	50～54歳	552	10.5	14.7	15.2	28.6	37.7	28.3	27.0	42.0	12.9
	55～59歳	473	9.5	13.5	15.0	24.1	37.2	30.2	24.3	40.6	12.1
	60～64歳	442	8.4	14.5	16.3	21.7	39.1	24.9	23.5	37.6	12.9

項目	回答者数(人)	介護保険やサービスの情報提供	特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実	相談体制の充実	地域包括ケアシステムの充実	地域におけるボランティア組織の育成	その他	わからない	特にない	無回答	
全体	1,486	39.2	45.9	27.4	32.4	7.8	4.2	6.5	2.1	1.8	
圏域別	富坂 地区	482	39.4	47.9	26.1	30.5	7.1	3.9	6.2	1.2	1.9
	大塚 地区	341	39.3	43.4	26.7	34.0	7.9	3.8	7.9	2.3	2.3
	本富士地区	301	35.9	44.2	26.6	32.2	9.6	2.7	7.3	4.0	2.3
	駒込 地区	362	41.4	47.0	30.4	33.4	7.2	6.4	5.0	1.4	0.8
性別	男性	640	31.6	41.1	23.1	25.2	7.2	3.1	9.1	3.8	1.9
	女性	828	44.8	49.8	30.4	38.0	8.3	5.1	4.7	0.7	1.8
年齢別	50～54歳	552	41.3	48.7	24.6	32.6	8.0	2.9	6.7	2.7	1.6
	55～59歳	473	38.7	45.2	29.0	30.4	7.2	5.7	5.9	0.8	1.5
	60～64歳	442	37.6	43.2	29.2	34.2	7.9	3.4	6.8	2.7	2.3

高年齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと「その他」(自由記述)

高年齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいことの自由記述の意見では、「高年齢者の福祉施策について」が17件、「施設・居住系サービスについて」が15件、「家族介護者支援について」が6件となっています。また、「その他」の意見・要望等が18件となっています。

図表 4.37 高年齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと(自由記述)(複数回答)



主な記述

1. 高年齢者の福祉施策について 17件

- ◇社会に若いうちから貢献することも重要なので、大学や高校の単位取得とからめて、介護ボランティアを組み入れてはどうか。
- ◇今まで培われてきた技術や知識が文京の財産になるように、高齢者と若い世代とが交流し、お互いに成長できる場
- ◇子供たちに介護の手助けができるように、小学生の頃から老人と接するようにしてボランティア活動をしてほしい。

2. 施設・居住系サービスについて 15件

- ◇区内に家族が負担にならないように老人ホームが増えれば、介護される人もする人も地域を離れずに生活できると思う。
- ◇特別養護老人ホームに入りたくても入れない老人が何百人といることをもっと考えて、施設を増やすなどしてほしい。

3. 家族介護者支援について 6件

- ◇サポートする家族のフォローが大切だと思う。介護は、本人の意志を尊重と言っているが、年配者は、自分がおとろえてきたことを知られるのはこわく、また、家族も元気な頃を知っているので特に認知症への対応が後手に回っている気がする。
- ◇在宅介護をしている人を支援してほしい。仕事をしながら介護をしていると24時間仕事、家事、介護に追われて、心身疲れてくる。

4. 居宅の介護サービスについて 5件

- ◇他区に比ベショートステイや夜間も利用できるサービス等の施設や支援が少ない。
- ◇歩行をしたいと本人が思っているうちに訓練できるサービスを強く望む。

5. 介護保険制度・事業について 4件

- ◇年金は将来どうなるかわからないし、介護保険のサービスも維持されるか不安な上、高齢者の人口は増えることは間違いないので、区には福祉の財源をしっかりと確保し、国の方針に左右されないくらいきちんとした区独自の政策を確立してほしい。
- ◇独居老人も増加すると思うので終末期の財産管理、資産価格の先払交換サービス（他の市で実施している内容）等も文京区でも実施する時機に来ているのではないかと思う。

6. 行政の対応について 3件

- ◇区役所内での部門間の連携をきちんと行ってほしい。
- ◇区のアナウンスが少ない。

7. その他 18件

- ◇複数のサービスを受ける際の手続きが煩雑で、家族や本人の負担が大きい。
- ◇認知症だということを自覚していない本人・家族への周知、告知。認知症の方がいるコミュニティ（地域、マンション等）での、周辺の住民へ告知
- ◇介護職の方たちの勤務体制や待遇の改善

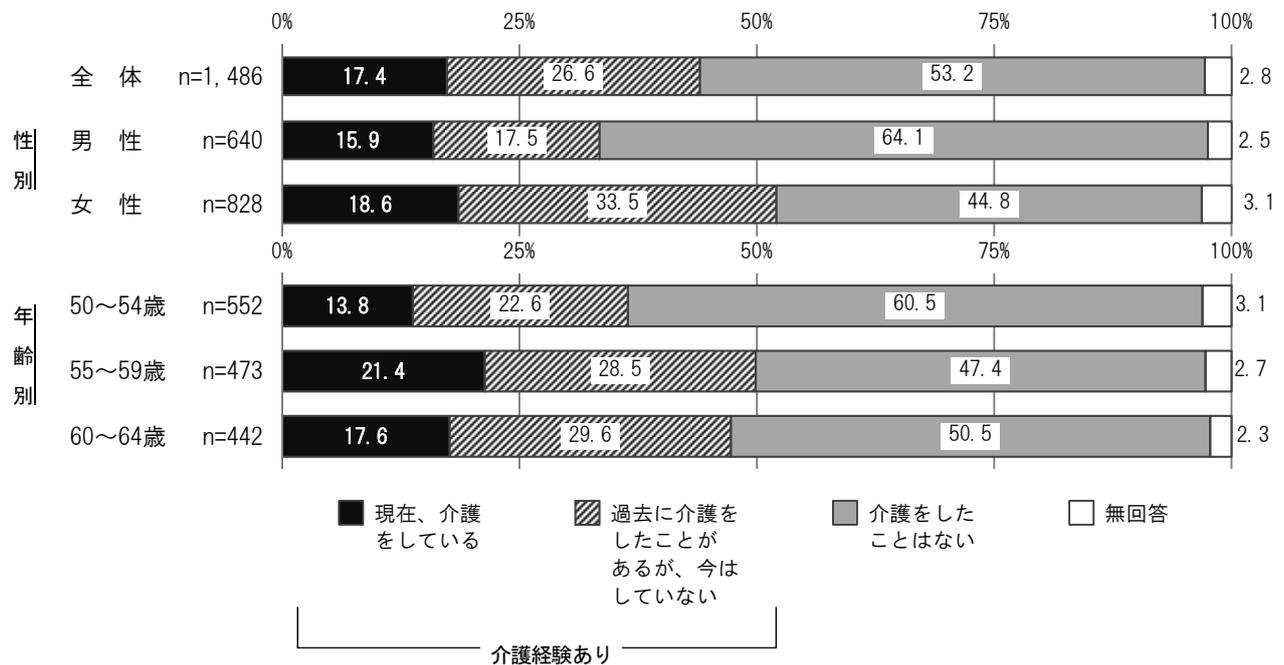
問17 介護者及び介護の状況について

介護経験は、「現在、介護をしている」、「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」を合わせた割合が44.0%、「介護をしたことがない」が53.2%となっており、介護経験のない割合のほうが9.2ポイント高くなっています。

性別にみると、「男性」は「現在、介護をしている」が15.9%、「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」が17.5%、「女性」は「現在、介護をしている」が18.6%、「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」が33.5%となっており、介護経験のある割合は「男性」が33.4%、「女性」が52.1%で「女性」のほうが10ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、「55~59歳」は「現在、介護をしている」が21.4%で他の年代より高くなっており、「60~64歳」は「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」が29.6%で他の年代より高くなっています。

図表 4.38 介護経験の有無/性別/年齢別



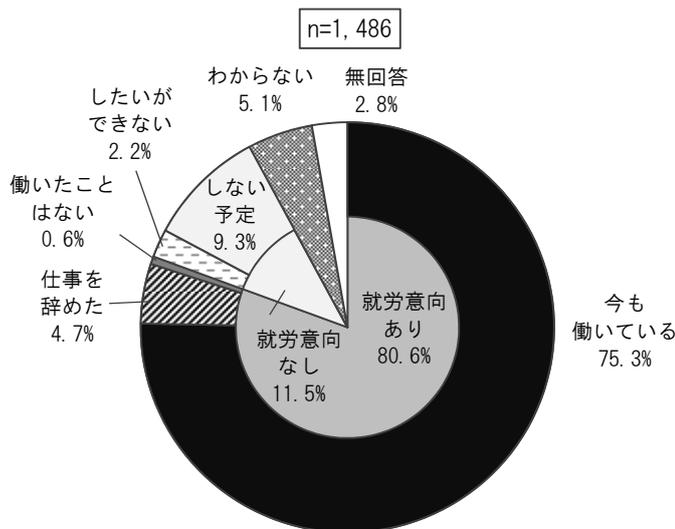
8 就業について

問 18 現在の就労状況と今後の就労意向

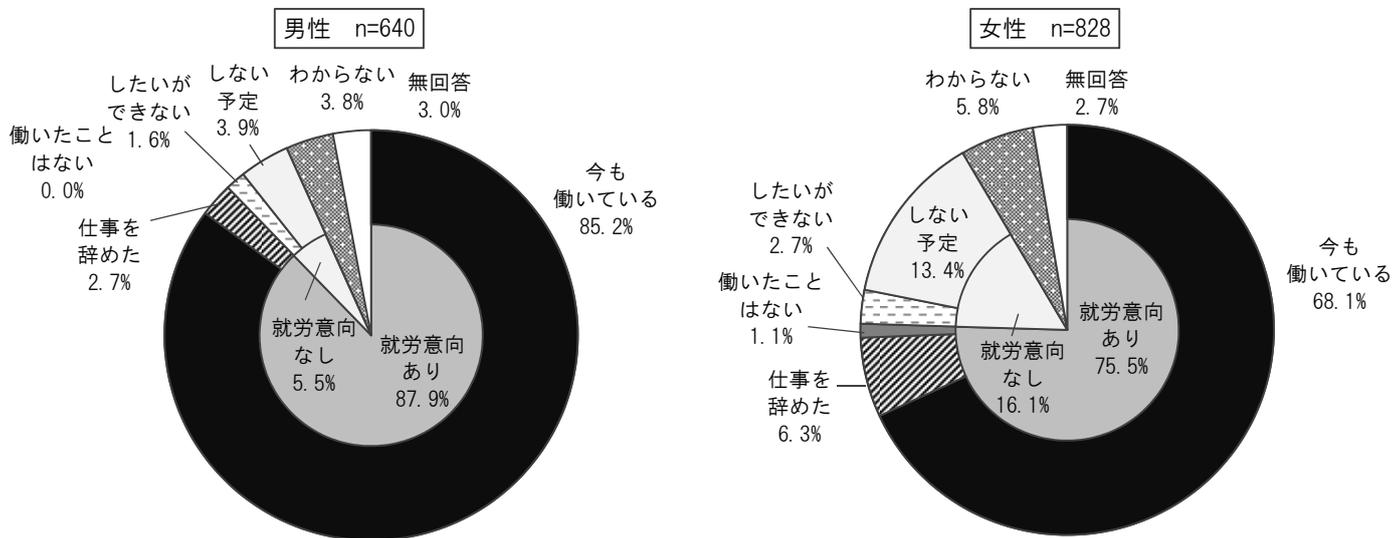
現在の就労状況は、「今も働いている」割合が75.3%となっており、今後の就労意向は、就労意向のある割合は80.6%、就労意向のない割合が11.5%となっています。

就労状況と今後の就労意向を性別にみると、「今も働いている」割合は「男性」が85.2%、「女性」が68.1%となっており、今後の就労意向のある割合は「男性」が87.9%、「女性」が75.5%となっています。

図表 4.39 就労状況と就労意向



図表 4.40 就労状況と就労意向/性別



就労状況と今後の就労意向を性別・年齢別にみると、就労意向のない割合は、「男性」の「60~64歳」が11.5%、「女性」の「55~59歳」が16.8%、「60~64歳」が27.6%となっており、ともに年齢が上がるほど高くなっています。また、「女性」の「60~64歳」では、「仕事はしない予定である」が25.0%となっており、他の年代より高くなっています。

図表 4.41 就労状況と就労意向/性別・年齢別

単位：%

項目	回答者数(人)	就労意向あり			就労意向なし		わからない	無回答	
		今も働いており、今後も何らかの仕事をしたい	今は仕事を辞めたが、今後も何らかの仕事をしたい	働いたことはないが、今後は何らかの仕事をしたい	仕事はしたいができない	仕事はしない予定である			
全体	1,486	75.3	4.7	0.6	2.2	9.3	5.1	2.8	
男性	50~54歳	228	92.1	1.3	0.0	0.9	0.0	3.5	2.2
	55~59歳	195	84.1	2.6	0.0	2.1	2.6	4.6	4.1
	60~64歳	209	78.5	4.3	0.0	1.9	9.6	3.3	2.4
女性	50~54歳	316	76.3	5.7	1.3	2.2	4.7	7.9	1.9
	55~59歳	275	70.2	5.1	0.7	3.3	13.5	5.5	1.8
	60~64歳	228	54.8	8.3	1.3	2.6	25.0	3.1	4.8

就労意向のある人の就労継続希望年齢は、「70~74歳」が37.1%で最も高く、次いで「65~69歳」が30.0%となっています。

性別・年齢別にみると、「男性」の「50~54歳」、「60~64歳」と「女性」の「55~59歳」、「60~64歳」の就労継続希望年齢は「70~74歳」が最も高くなっており、「男性」の「55~59歳」、「女性」の「50~54歳」では「65~69歳」が最も高くなっています。

図表 4.42 【就労意向のある方】就労継続希望年齢/性別・年齢別

単位：%

項目	回答者数(人)	50	60	65	70	75	80	85	無回答	
		~59歳	~64歳	~69歳	~74歳	~79歳	~84歳	歳以上		
全体	1,198	0.6	10.5	30.0	37.1	8.0	5.3	1.7	6.9	
男性	50~54歳	213	0.5	7.0	31.9	41.8	4.7	6.6	0.5	7.0
	55~59歳	169	0.0	11.2	34.3	30.2	11.8	4.1	4.1	4.1
	60~64歳	173	0.0	1.2	22.5	48.6	13.9	6.9	3.5	3.5
女性	50~54歳	263	2.3	21.3	31.2	26.2	3.8	3.4	0.8	11.0
	55~59歳	209	0.0	15.3	31.1	31.6	6.2	5.3	1.0	9.6
	60~64歳	147	0.0	0.0	25.9	53.1	10.9	6.1	0.7	3.4

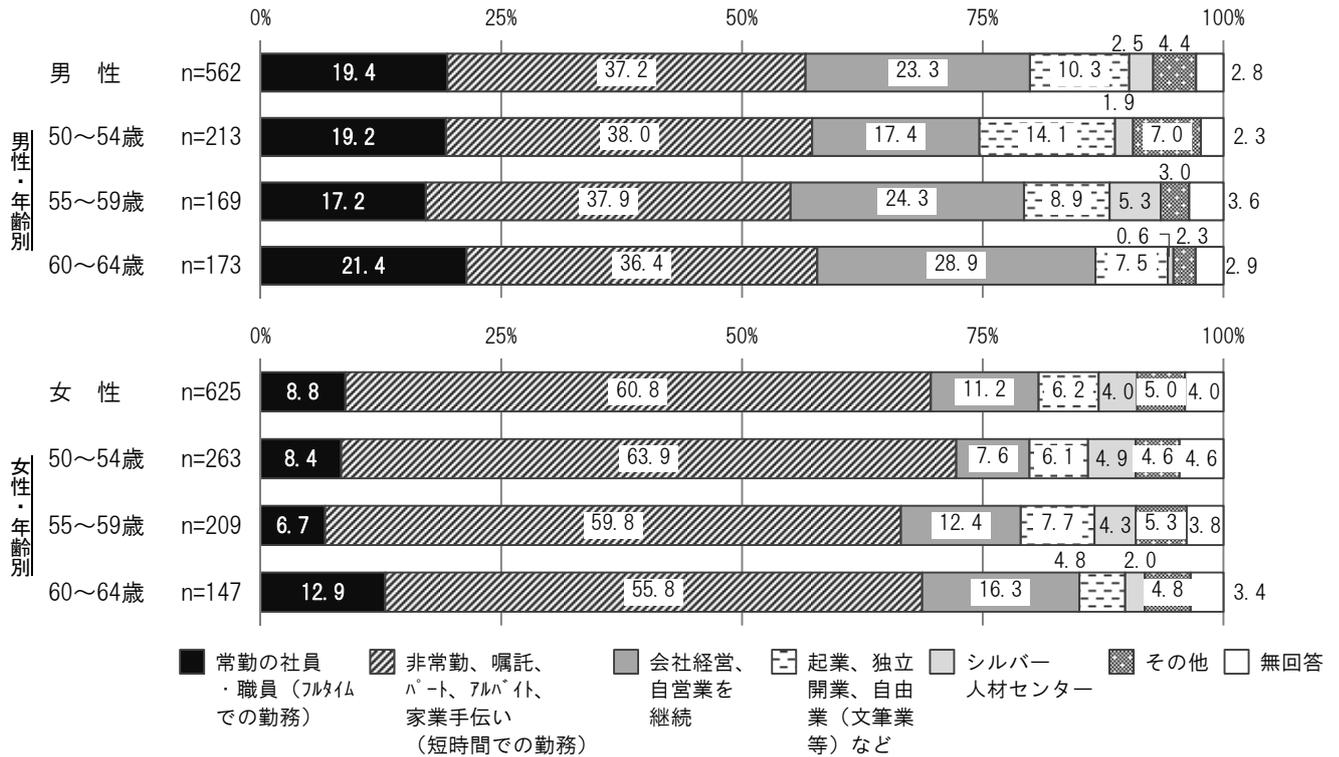
問 18-1 【就労意向のある方】希望する働き方

希望する働き方を性別にみると、ともに「非常勤、嘱託、パート、アルバイト、家業手伝い」が最も高く、それぞれ37.2%、60.8%となっています。

性別・年齢別にみると、「常勤の社員、職員」は男女とも「60~64歳」が、それぞれ21.4%、12.9%で高くなっています。

就労意向別にみると、いずれも「非常勤、嘱託、パート、アルバイト、家業手伝い」が最も高く、約5割となっています。また、「就労中で今後も就労意向あり」では、「会社経営、自営業を継続」が18.2%となっています。

図表 4.43 希望する働き方/性別・年齢別



※その他【抜粋】

- ・自分のペースのできる仕事をしたい。 ・65歳以降はゆっくりしたい。 ・家事のみにしたい。
- ・大工職人 ・獣医師なので、NPO設立 (動物保護) ・自宅のできる仕事希望 ・地域活動

図表 4.44 希望する働き方/就労意向別

単位：%

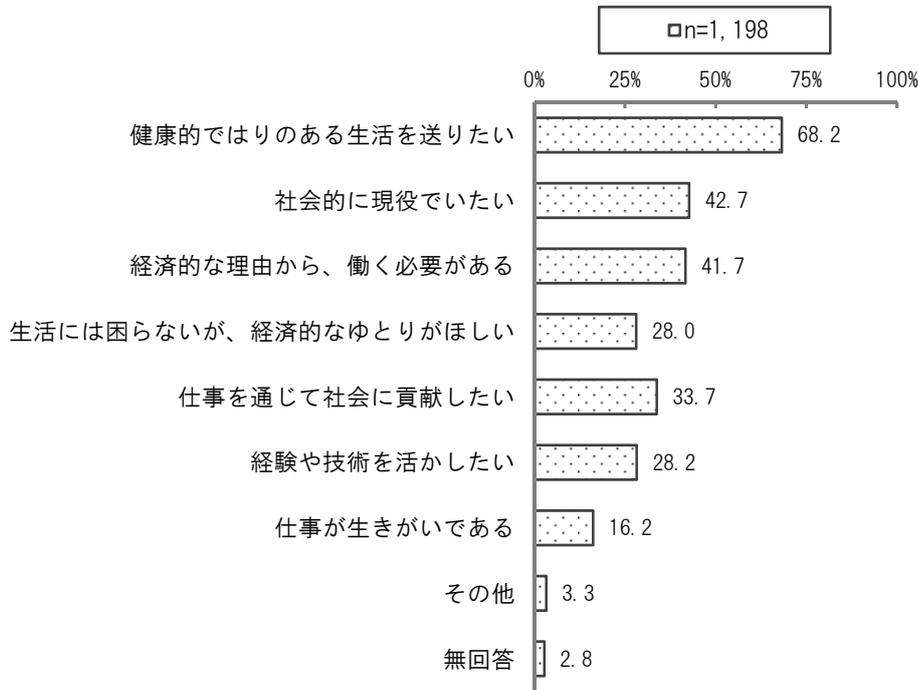
項目	回答者数 (人)	常勤の社員・職員 (フルタイムでの勤務)	非常勤、嘱託、パート、アルバイト、家業手伝い (短時間での勤務)	会社経営、自営業を継続	起業、独立開業、自由業 (文筆業等) など	シルバー人材センター	その他	無回答	
全体	1,198	13.7	49.8	17.0	8.1	3.3	4.7	3.4	
就労意向別	就労中で今後も就労意向あり	1,119	14.3	48.8	18.2	7.7	3.1	4.5	3.4
	仕事を辞めたが就労意向あり	70	5.7	64.3	0.0	14.3	5.7	7.1	2.9
	就労経験ないが就労意向あり	9	0.0	66.7	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1

問 18-2 【就労意向のある方】仕事をしたい（し続けたい）理由

仕事をしたい（し続けたい）理由は、「健康的ではりのある生活を送りたい」が68.2%で最も高く、次いで「社会的に現役でいたい」が42.7%、「経済的な理由から、働く必要がある」が41.7%となっています。

年齢別にみると、いずれも「健康的ではりのある生活を送りたい」が7割弱で最も高くなっています。また、年齢が上がるにつれて、「生活には困らないが、経済的なゆとりがほしい」、「仕事を通じて社会に貢献したい」、「仕事が生きがいである」は、高くなる傾向にあります。

図表 4.45 仕事をしたい（し続けたい）理由（複数回答）



※その他【抜粋】

- ・子供達に金銭的な負担はかけたくない。
- ・ボケ防止、社会とのつながり
- ・生きているかぎり人は働くものと考えているため
- ・他人の役に立って、給料をもらえるのはうれしい。
- ・定期的な生活のリズムをつくる。
- ・次世代に繋ぐ役割が残っているため

図表 4.46 仕事をしたい（し続けたい）理由（複数回答）/年齢別

単位：%

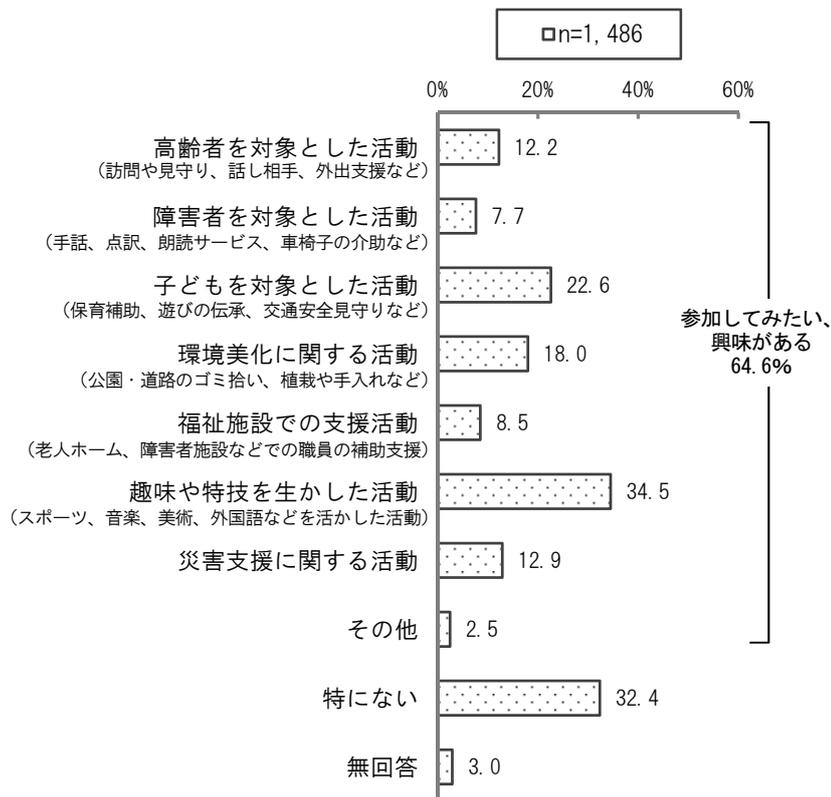
項目	回答者数(人)	たあ健康	いた社会	あら経済	ゆいが	生活には	会仕事	か経験	で仕事	その他	無回答
		ある健康	いた社会	ある経済	ゆいが	生活には	会仕事	か経験	で仕事	その他	無回答
全体	1,198	68.2	42.7	41.7	28.0	33.7	28.2	16.2	3.3	2.8	
年齢別	50~54歳	482	68.9	40.0	43.4	25.1	31.5	25.7	12.4	4.1	3.3
	55~59歳	380	68.4	40.0	40.8	29.5	34.2	26.6	16.8	1.8	1.6
	60~64歳	322	67.7	49.1	38.8	31.7	36.3	33.9	20.8	3.7	3.4

9 地域とのつながり・地域活動について

問19 参加してみたい、興味があるボランティア活動

ボランティア活動に参加してみたい、興味がある割合は64.6%となっています。活動内容は、「趣味や特技を生かした活動」が34.5%で最も高く、次いで「子どもを対象とした活動」が22.6%、「環境美化に関する活動」が18.0%となっています。

図表 4.47 参加してみたい、興味があるボランティア活動（複数回答）



※「参加してみたい、興味がある」=100%－「特にない」－「無回答」

※その他【抜粋】

- ・図書館ボランティア
- ・生活困窮者（子供を含む支援）
- ・子ども食堂に参加したい。
- ・東京オリンピックに関するボランティア
- ・いじめ等に対する相談相手など（親に対する）
- ・外国人を対象とした活動

参加してみたい、興味があるボランティア活動を圏域別、性別、年齢別にみると、いずれも「趣味や特技を生かした活動」が3割から3割強で最も高くなっています。

図表 4.48 参加してみたい、興味があるボランティア活動（複数回答）/圏域別/性別/年齢別 単位：%

項目	回答者数(人)	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子どもを対象とした活動	環境美化に関する活動	福祉施設での支援活動	趣味や特技を生かした活動	災害支援に関する活動	その他	特にない	無回答	
全体	1,486	12.2	7.7	22.6	18.0	8.5	34.5	12.9	2.5	32.4	3.0	
圏域別	富坂 地区	482	13.9	8.5	25.9	20.5	10.4	36.1	14.1	2.3	29.3	3.5
	大塚 地区	341	10.3	5.9	22.6	15.0	7.3	30.5	11.7	3.2	35.5	2.9
	本富士地区	301	13.0	9.0	21.3	19.3	7.6	38.5	14.0	1.7	32.6	2.7
	駒込 地区	362	11.3	7.2	19.3	16.6	8.0	32.9	11.6	2.8	33.4	2.5
性別	男性	640	8.0	5.0	18.8	19.4	4.8	36.6	15.2	1.3	36.9	3.3
	女性	828	15.6	9.7	25.5	17.1	11.5	32.7	11.1	3.5	28.7	2.8
年齢別	50~54 歳	552	12.9	9.1	26.3	18.7	9.6	35.3	14.7	3.4	30.3	2.9
	55~59 歳	473	12.5	6.8	24.5	18.4	7.6	35.3	14.6	1.3	29.4	2.5
	60~64 歳	442	11.5	7.0	15.6	17.4	8.4	33.3	9.0	2.7	37.6	3.6

健康感別にみると、「とても健康」と思う人は、「趣味や特技を生かした活動」が41.8%で最も高く、一方、「健康ではない」と思う人は、「特にない」が56.5%となっています。
就労意向別にみると、いずれも「趣味や特技を生かした活動」が高くなっています。また、就労意向のない人のうち、「しない予定」、「わからない」では、「特にない」の割合が50.0%と高くなっています。

図表 4.49 参加してみたい、興味があるボランティア活動（複数回答）/健康感別/就労意向別 単位：%

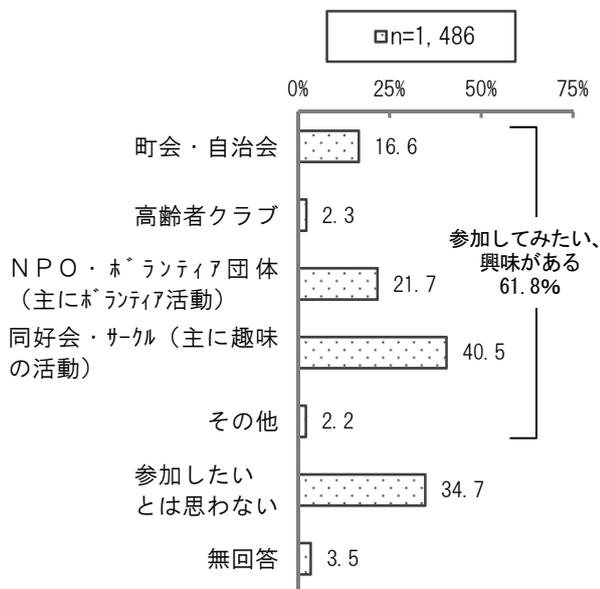
項目	回答者数(人)	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子どもを対象とした活動	環境美化に関する活動	福祉施設での支援活動	趣味や特技を生かした活動	災害支援に関する活動	その他	特にない	無回答	
全体	1,486	12.2	7.7	22.6	18.0	8.5	34.5	12.9	2.5	32.4	3.0	
健康感別	とても健康	337	12.8	6.8	26.7	19.3	9.8	41.8	13.1	3.0	25.5	1.8
	どちらかといえば健康	961	12.4	7.8	22.5	18.1	8.1	34.1	13.7	2.5	32.2	3.0
	あまり健康ではない	135	8.1	7.4	17.0	16.3	6.7	23.0	6.7	1.5	42.2	5.9
	健康ではない	46	17.4	10.9	8.7	13.0	13.0	21.7	13.0	2.2	56.5	2.2
就労意向別	就労中で今後も就労意向あり	1,119	12.1	7.9	24.2	18.9	9.2	35.8	14.7	2.4	30.1	2.9
	仕事を辞めたが就労意向あり	70	25.7	14.3	31.4	28.6	12.9	50.0	11.4	4.3	17.1	2.9
	就労経験ないが就労意向あり	9	22.2	22.2	33.3	33.3	0.0	33.3	22.2	0.0	22.2	11.1
	仕事はしたいができない	33	12.1	12.1	15.2	15.2	6.1	33.3	6.1	3.0	24.2	6.1
	しない予定	138	8.7	4.3	10.9	10.1	5.1	26.1	5.8	3.6	50.0	0.0
	わからない	76	10.5	2.6	18.4	10.5	5.3	19.7	5.3	1.3	50.0	2.6

問20 参加してみたい、興味がある活動団体やグループ

問21 定期的に参加している活動団体やグループ

活動団体やグループに参加してみたい、興味がある割合は61.8%で、「同好会・サークル」が40.5%で最も高く、次いで「NPO・ボランティア団体」が21.7%、「町会・自治会」が16.6%となっています。また、現在何らかの活動団体等に参加している割合は29.6%で、「同好会・サークル」が15.4%、「町会・自治会」が10.4%となっています。

図表 4.50 参加してみたい活動団体等（複数回答）

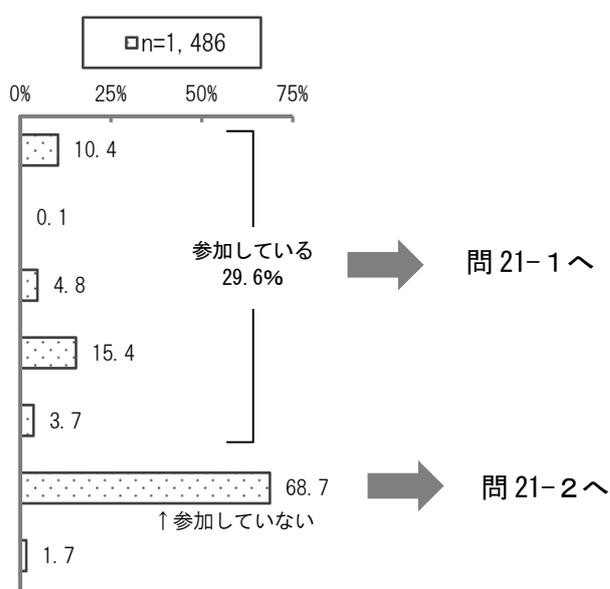


※「参加してみたい、興味がある」
=100%－「参加したいとは思わない」－「無回答」

※その他【抜粋】

- ・子供預り等
- ・地域の教育機関での研究活動
- ・教会
- ・盲導犬協会
- ・少年野球指導

図表 4.51 参加している活動団体等（複数回答）



※「参加している」
=100%－「参加していない」－「無回答」

※その他【抜粋】

- ・小学校と中学校のコーラス (PTA)
- ・文京アカデミアサポーター
- ・学童保育関係
- ・ボーイスカウト
- ・男女共同参画

参加してみたい、興味がある活動団体等を圏域別、性別、健康感別、就労意向別にみると、いずれも「同好会・サークル」が最も高く、特に「駒込地区」が42.5%、「女性」が45.0%、「とても健康」が44.8%、「仕事を辞めたが就労意向あり」が61.4%となっています。また、就労意向のない人のうち、「しない予定」、「わからない」では、「参加したいとは思わない」の割合が4割強となっています。

図表 4.52 参加してみたい活動団体等（複数回答）/圏域別/性別/健康感別/就労意向別 単位：%

項目	回答者数(人)	町会・自治会	高齢者クラブ	NPO・ボランティア団体(主にボランティア活動)	同好会・サークル(主に趣味の活動)	その他	参加したいとは思わない	無回答	
全体	1,486	16.6	2.3	21.7	40.5	2.2	34.7	3.5	
圏域別	富坂 地区	482	16.4	2.9	22.8	41.1	1.7	33.0	4.1
	大塚 地区	341	15.8	1.2	21.1	37.5	1.8	39.3	3.5
	本富士地区	301	19.9	4.0	20.3	40.5	2.3	35.9	2.3
	駒込 地区	362	14.9	1.1	21.8	42.5	3.0	31.8	3.6
性別	男性	640	20.0	2.0	19.4	34.5	1.4	39.5	3.3
	女性	828	14.3	2.5	23.3	45.0	2.8	31.0	3.7
健康感別	とても健康	337	17.5	1.5	23.7	44.8	3.0	32.9	2.1
	どちらかといえば健康	961	17.5	2.1	21.7	41.1	2.1	33.0	3.9
	あまり健康ではない	135	9.6	5.2	17.8	32.6	1.5	45.9	5.2
	健康ではない	46	15.2	4.3	17.4	17.4	0.0	50.0	2.2
就労意向別	就労中で今後も就労意向あり	1,119	18.1	2.5	22.5	40.3	2.0	33.7	3.8
	仕事を辞めたが就労意向あり	70	10.0	2.9	32.9	61.4	0.0	21.4	2.9
	就労経験ないが就労意向あり	9	11.1	0.0	33.3	55.6	0.0	33.3	0.0
	仕事はしたいができない	33	15.2	0.0	21.2	45.5	9.1	27.3	3.0
	しない予定	138	10.1	1.4	14.5	39.9	3.6	45.7	0.7
	わからない	76	13.2	2.6	17.1	27.6	0.0	43.4	2.6

参加している活動団体等を性別にみると、「男性」は「町会・自治会」が12.8%、「女性」は「同好会・サークル」が19.0%で最も高くなっています。
 健康感別にみると、「健康ではない」と思う人を除いて、いずれも「同好会・サークル」が最も高くなっています。
 就労意向別にみると、「わからない」では「参加していない」が76.3%と高くなっています。

図表 4.53 参加している活動団体等（複数回答）/性別/健康感別/就労意向別 単位：%

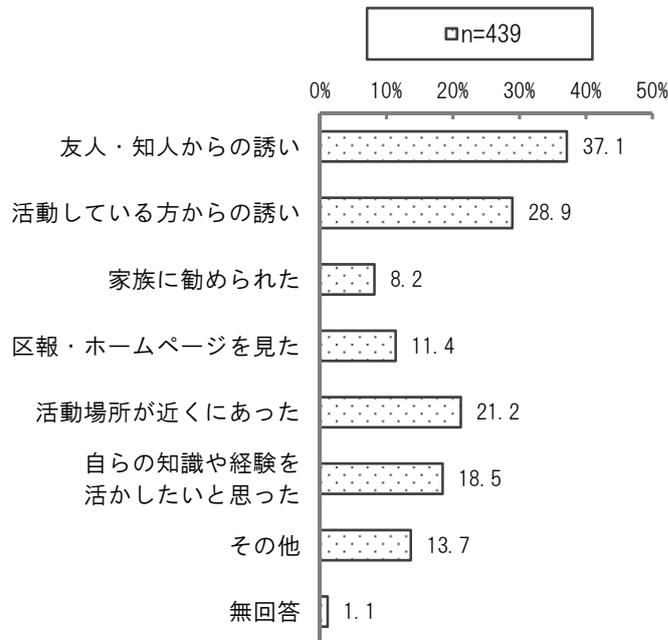
項目		回答者数（人）	町会・自治会	高齢者クラブ	NPO・ボランティア団体（主にボランティア活動）	同好会・サークル（主に趣味の活動）	その他	参加していない	無回答
全体		1,486	10.4	0.1	4.8	15.4	3.7	68.7	1.7
性別	男性	640	12.8	0.0	4.7	11.1	3.4	71.6	1.9
	女性	828	8.7	0.2	4.8	19.0	4.0	66.1	1.7
健康感別	とても健康	337	9.8	0.3	7.7	20.5	5.0	63.2	0.9
	どちらかといえば健康	961	10.9	0.1	3.6	14.7	3.5	69.3	2.1
	あまり健康ではない	135	8.9	0.0	5.2	10.4	1.5	74.8	1.5
	健康ではない	46	10.9	0.0	6.5	4.3	4.3	80.4	2.2
就労意向別	就労中で今後も就労意向あり	1,119	11.3	0.2	4.1	14.8	3.3	69.7	2.1
	仕事を辞めたが就労意向あり	70	5.7	0.0	8.6	15.7	5.7	65.7	0.0
	就労経験ないが就労意向あり	9	11.1	0.0	22.2	44.4	0.0	44.4	0.0
	仕事はしたいができない	33	9.1	0.0	9.1	15.2	12.1	63.6	0.0
	しない予定	138	6.5	0.0	5.8	24.6	5.1	60.1	0.7
	わからない	76	11.8	0.0	6.6	5.3	1.3	76.3	1.3

問 21-1 【参加している方】参加している活動を始めたきっかけ

参加している活動を始めたきっかけは、「友人・知人からの誘い」が37.1%で最も高く、次いで「活動している方からの誘い」が28.9%、「活動場所が近くにあった」が21.2%となっています。

性別、年齢別にみると、いずれも「友人・知人からの誘い」が3割から4割で最も高くなっています。また、「60~64歳」は「区報・ホームページを見た」が2割弱となっており、「50~59歳」より高くなっています。

図表 4.54 参加している活動を始めたきっかけ（複数回答）



※その他【抜粋】

- ・住んでいるからには、義務だと思う。
- ・東日本大震災をきっかけに日本の文化を海外に紹介したいと思った。
- ・ネットで検索をし、自分に合うと思い、アプローチした。
- ・放送大学の掲示板を見た。
- ・コンサートを聞きに行き感激したので。

図表 4.55 参加している活動を始めたきっかけ（複数回答）/性別/年齢別

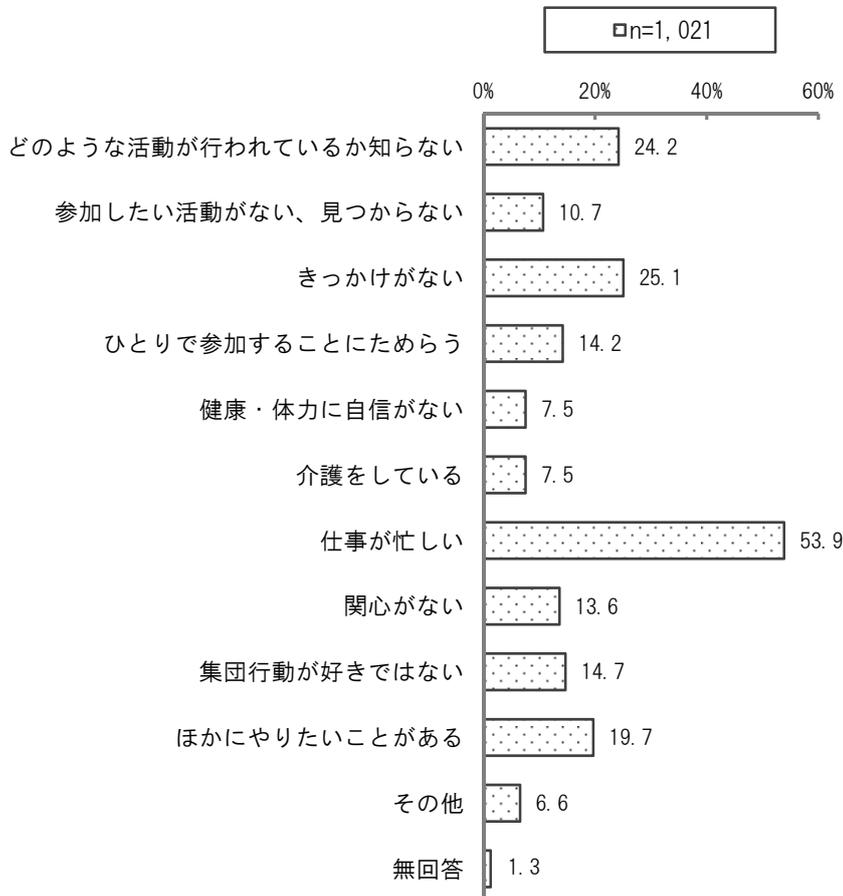
単位：%

項目		回答者数(人)	友人・知人からの誘い	活動している方からの誘い	家族に勧められた	区報・ホームページを見た	活動場所が近くにあった	自らの知識や経験を活かしたいと思った	その他	無回答
全体		439	37.1	28.9	8.2	11.4	21.2	18.5	13.7	1.1
性別	男性	170	40.0	35.3	9.4	6.5	15.3	15.9	15.9	0.6
	女性	267	35.6	24.7	7.5	14.6	25.1	19.9	12.4	1.5
年齢別	50~54歳	149	41.6	32.2	11.4	9.4	17.4	10.7	14.1	0.0
	55~59歳	146	34.2	30.1	5.5	7.5	24.0	25.3	13.7	1.4
	60~64歳	139	35.3	25.2	7.9	17.3	23.0	18.7	13.7	2.2

問 21-2 【参加していない方】 現在活動団体やグループに参加していない理由

活動団体等に参加していない理由は、「仕事が忙しい」が53.9%で最も高く、次いで「きっかけがない」が25.1%、「どのような活動が行われているか知らない」が24.2%となっています。

図表 4.56 活動団体等に参加していない理由（複数回答）



※その他【抜粋】

- ・一人でゆったり過す時間が「幸せ」と感じる。
- ・社会的活動に参加したり、交遊関係を広めたいと思う反面、家族や友人との交遊で充実している。
- ・どの団体も、有意義な活動をしているように思えない。

活動団体等に参加していない理由を性別にみると、ともに「仕事が忙しい」が最も高く、「男性」が56.3%、「女性」が52.3%となっています。

年齢別にみると、いずれも「仕事が忙しい」が最も高く、それぞれ60.5%、52.2%、47.0%となっています。「50~54歳」、「60~64歳」は、次いで「きっかけがない」がそれぞれ26.0%、25.7%、「55~59歳」は、次いで「どのような活動が行われているか知らない」、「ほかにやりたいことがある」がともに24.4%となっています。

健康感別にみると、いずれも「仕事が忙しい」が最も高くなっています。また、「健康ではない」と思う人は、「介護をしている」が29.7%で他より高くなっています。

就労意向別にみると、「就労中で今後も就労意向あり」では、「仕事が忙しい」が67.1%と最も高くなっており、「仕事を辞めたが就労意向あり」では、「きっかけがない」が41.3%で最も高くなっています。

図表 4.57 活動団体等に参加していない理由（複数回答）/性別/年齢別/健康感別/就労意向別 単位：%

項目	回答者数(人)	どのよう な活動が 行われ ているか 知らない	参加し たい活 動がな い、見 つから ない	きっ かけが ない	ひと りで 参加 する こと に ため らう	健康 ・体 力に 自信 がな い	介 護を して いる	仕 事 が 忙 し い	関 心 が な い	集 団 行 動 が 好 き で は な い	ほ か に や り た い こ と が あ る	そ の 他	無 回 答	
全 体	1,021	24.2	10.7	25.1	14.2	7.5	7.5	53.9	13.6	14.7	19.7	6.6	1.3	
性 別	男 性	458	22.3	8.1	24.0	12.9	6.1	4.8	56.3	18.1	16.6	21.0	3.5	2.6
	女 性	547	25.0	12.6	25.4	15.2	8.6	10.1	52.3	10.1	13.5	18.6	9.3	0.2
年 齢 別	50~54歳	392	25.8	10.5	26.0	18.4	6.4	5.9	60.5	14.8	12.8	15.6	4.8	1.8
	55~59歳	320	24.4	10.9	22.8	10.9	6.9	8.1	52.2	15.3	17.2	24.4	8.8	0.9
	60~64歳	296	22.3	10.8	25.7	12.5	9.5	8.8	47.0	10.5	14.5	20.3	6.4	1.0
健康感別	とても健康	213	25.4	7.5	24.4	13.1	0.9	5.2	51.2	16.4	15.5	26.8	6.1	0.9
	どちらか といえ ば健康	666	23.3	11.4	25.7	14.7	5.0	7.2	56.8	12.6	14.6	18.8	6.9	0.9
	あまり健康 では ない	101	32.7	13.9	26.7	16.8	27.7	6.9	45.5	11.9	14.9	13.9	5.0	2.0
	健康で は な い	37	13.5	8.1	16.2	5.4	35.1	29.7	43.2	13.5	13.5	13.5	8.1	8.1
就 労 意 向 別	就労中で今 後も就労 意向あり	780	23.7	9.2	24.7	13.8	6.0	6.5	67.1	13.1	14.5	19.4	5.5	1.0
	仕事を辞 めたが 就労意 向あり	46	39.1	13.0	41.3	13.0	2.2	15.2	2.2	4.3	8.7	15.2	21.7	2.2
	就労経験 ないが 就労意 向あり	4	0.0	50.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	仕事はし たいが できな い	21	38.1	23.8	33.3	23.8	38.1	33.3	0.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8
	しない予 定	83	20.5	15.7	18.1	12.0	12.0	4.8	2.4	25.3	20.5	27.7	9.6	0.0
	わから ない	58	22.4	10.3	25.9	15.5	12.1	12.1	24.1	10.3	10.3	17.2	3.4	5.2

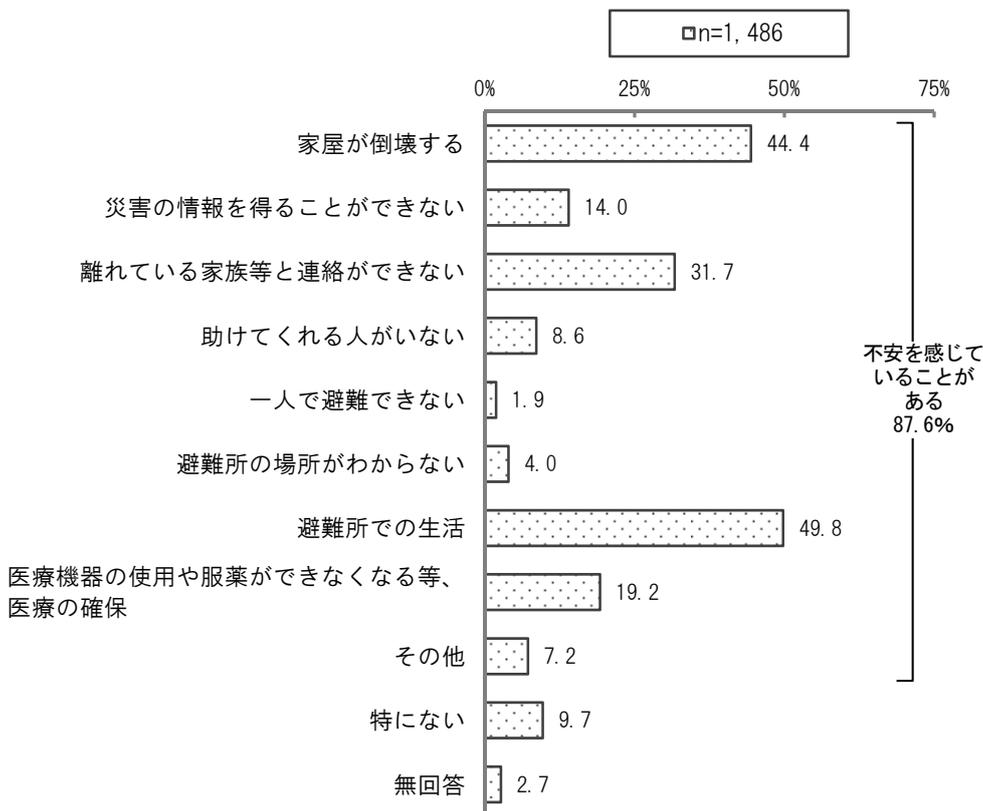
10 災害について

問 22 災害に関して不安に感じていること

災害に関して不安に感じていることがある割合は87.6%で、「避難所での生活」が49.8%で最も高く、次いで「家屋が倒壊する」が44.4%、「離れている家族等と連絡ができない」が31.7%となっています。

健康感別にみると、「健康ではない」と思う人は、「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」が54.3%で最も高くなっています。

図表 4.58 災害に関して不安に感じていること（複数回答）



※「不安を感じていることがある」=100%－「特にない」－「無回答」

※その他【抜粋】

- ・子供たち（小学生を含む）の避難行動 ・国や自治体の迅速な復興対応 ・家族との別れ
- ・経済活動ができなくなることによる収入の確保 ・最低限のプライバシーの確保

図表 4.59 災害に関して不安に感じていること（複数回答）/健康感別

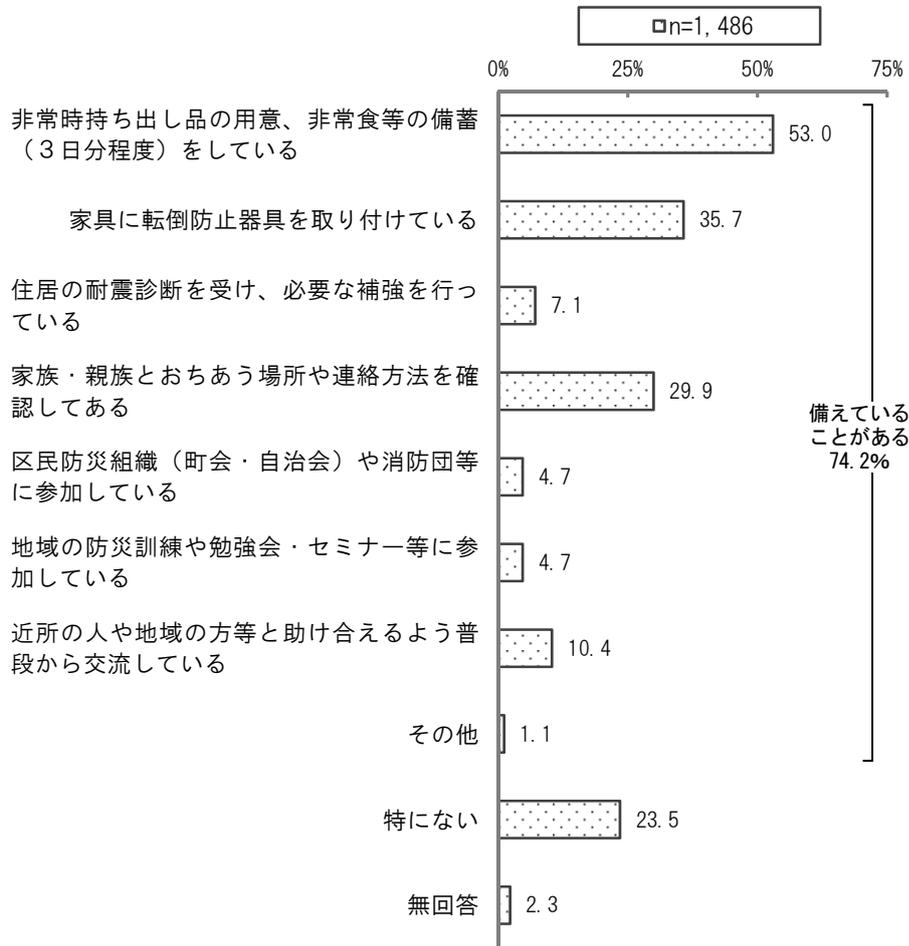
単位：%

項目	回答者数(人)	家屋が倒壊する	災害の情報を得ることができない	離れている家族等と連絡ができない	助けてくれる人がいない	一人で避難できない	避難所の場所がわからない	避難所での生活	医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保	その他	特にない	無回答	
全体	1,486	44.4	14.0	31.7	8.6	1.9	4.0	49.8	19.2	7.2	9.7	2.7	
健康感別	とても健康	337	35.9	12.8	33.2	6.2	1.8	2.4	43.3	8.9	8.0	13.1	1.2
	どちらかといえば健康	961	46.7	14.8	31.4	7.3	1.5	4.3	52.4	18.7	7.1	8.8	3.1
	あまり健康ではない	135	48.9	14.1	35.6	20.7	4.4	5.2	49.6	36.3	7.4	8.1	3.7
	健康ではない	46	41.3	8.7	15.2	15.2	2.2	4.3	43.5	54.3	4.3	8.7	2.2

問 23 災害発生時に備えて行っていること

災害発生時に備えて行っていることがある割合は74.2%で、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が53.0%で最も高く、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」が35.7%、「家族・親族とおちあう場所や連絡方法を確認してある」が29.9%となっています。一方で、「特にない」の割合は、23.5%となっています。

図表 4.60 災害発生時に備えて行っていること（複数回答）



※「備えていることがある」=100%－「特にない」－「無回答」

※その他【抜粋】

- ・マンション内の防災訓練への参加
- ・背の高い家具を購入しない。
- ・転倒して困るような家具を家から排除
- ・上級救命技能を持っており、AED等お手伝いができるようにしている。
- ・個々が状況に応じて、どのように行動するか、決めている。

災害発生時に備えて行っていることを住居形態別にみると、全体的に「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が高くなっています。

定期的に参加している活動団体等別にみると、いずれも「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が最も高くなっており、「町会・自治会」に参加している人は、「近所の人や地域の方等と助け合えるよう普段から交流している」が39.4%、「区民防災組織や消防団等に参加している」が34.2%で他より高くなっています。

図表 4.61 災害発生時に備えて行っていること（複数回答）

/住居形態別/定期的に参加している活動団体等（複数回答）別

単位：%

項目	回答者数 (人)	非常時持ち出し品の用意、 非常食等の備蓄（3日分程） をしている	家具に転倒防止器具を取り 付けている	住居の耐震診断を受け、必 要な補強を行っている	家族・親族とおちあう場所 や連絡方法を確認してある	区民防災組織（町会・自治 会）や消防団等に参加して いる	地域の防災訓練や勉強会・ セミナー等に参加している	近所の人や地域の方等と助 け合えるよう普段から交流 している	その他	特にな い	無回 答	
全体	1,486	53.0	35.7	7.1	29.9	4.7	4.7	10.4	1.1	23.5	2.3	
住居形態別	持ち家（一戸建て）	725	54.1	37.2	9.5	30.8	6.3	5.0	12.8	1.2	20.4	2.3
	分譲マンション	472	55.9	37.9	6.4	28.2	2.5	5.9	8.3	0.8	23.1	2.3
	借家（一戸建て）	42	52.4	35.7	4.8	45.2	9.5	7.1	16.7	0.0	16.7	2.4
	民間の賃貸マンション、アパート	181	44.2	24.3	1.7	29.3	1.7	1.1	5.5	0.6	35.4	2.8
	公営賃貸住宅	11	27.3	27.3	0.0	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	45.5	0.0
	その他	49	46.9	38.8	4.1	24.5	8.2	0.0	8.2	6.1	28.6	0.0
活動団体等（複数回答）別	町会・自治会	155	61.3	48.4	9.0	34.8	34.2	20.6	39.4	1.9	9.0	3.9
	高齢者クラブ	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	NPO・ボランティア団体（主にボランティア活動）	71	73.2	42.3	11.3	42.3	16.9	21.1	25.4	2.8	14.1	0.0
	同好会・サークル（主に趣味の活動）	229	60.3	42.8	7.9	32.3	11.4	9.6	19.2	1.7	17.0	1.3
	その他	55	58.2	41.8	14.5	41.8	5.5	12.7	25.5	1.8	12.7	5.5
	参加していない	1021	50.0	32.0	6.1	28.1	0.9	1.9	5.4	0.9	27.1	2.3